

日本学専攻（応用日本学コース）

◆ 令和 5 年度学年暦	2
◆ 授業年間スケジュール	3
◆ 学位プログラム「応用日本学」	4
◆ 履修要項	11
◆ 授業科目表	16
◆ 標準的履修例	19
◆ 研究指導プログラム	20
◆ 学修に関する事項・その他の手続き及び提出書類	23
◆ 研究指導・授業担当教員	30
◆ 人文学研究科以外の科目・プログラムについて	31
◆ 学術交流協定に基づく外国の大学への留学について	33
◆ 人文学研究科規程	34
◆ 大阪大学大学院学則・学位規程	64
◆ 厚生関係	65

月/曜	日	月	火	水	木	金	土
4月	(2023年)						1
			入学式				
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	①①	①①	①①	①①	15
	16	①①	②②	②②	②②	②②	22
	23	②②	③③	③③	③③	③③	29
	30						
5月		いちよう祭 1	いちよう祭 2	憲法記念日 3	みどりの日 4	こどもの日 5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	④④	⑤⑤	⑤⑤	⑤⑤	⑤⑤	20
	21	⑤⑤	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	27
	28	⑥⑥	⑦⑦	⑦⑦			
6月					⑦⑦	⑦⑦	3
	4	⑦⑦	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	10
	11	⑧⑧	①①	①①	①①	①①	17
	18	①①	②②	②②	②②	②②	24
	25	②②	③③	③③	③③	③③	
7月							1
	2	③③	④④	④④	④④	④④	8
	9	④④	⑤⑤	⑤⑤	⑤⑤	⑤⑤	15
	16	海の日 ⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	22
	23	⑤⑤	⑦⑦	⑦⑦	⑦⑦	⑦⑦	29
	30	⑥⑥	8月8日は月曜日の振替授業・試験実施日				
	31						
8月			⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	5
	6	⑦⑦	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
	31						
9月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	敬老の日 ⑧⑧	19	20	21	22	秋分の日 ⑨⑨
	24	25	26	27	28	29	30

月/曜	日	月	火	水	木	金	土
10月	(2023年)	①①	①①	①①	①①	①①	
	1	2	3	4	5	6	7
	8	スポーツの日 ⑨⑨	②②	②②	②②	②②	14
	15	②②	③③	③③	③③	③③	21
	22	③③	④④	④④	④④	④④	28
	29	④④	⑤⑤				
11月				⑤⑤	大学祭準備 2	文化の日 3	大学祭 4
	5	大学祭 6	7	8	9	10	11
	12	⑤⑤	⑦⑦	⑦⑦	⑥⑥	⑥⑥	18
	19	⑥⑥	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	⑦⑦	25
	26	⑦⑦	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧		
12月					⑧⑧	1	2
	3	①①	①①	①①	①①	①①	9
	10	②②	②②	②②	②②	②②	16
	17	③③	③③	③③	③③	③③	23
	24	④④	集中講義 26	集中講義 27	集中講義 28		30
	31						
1月	(2024年)	元日 1	2	3	④④	④④	6
	7	成人の日 8	④④	④④	⑤⑤	12	13
	14	⑤⑤	⑤⑤	⑤⑤	⑥⑥	⑤⑤	20
	21	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	27
	28	⑦⑦	⑦⑦	⑦⑦			
2月					⑧⑧	⑦⑦	3
	4	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧		10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29		
3月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	春分の日 20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

○数字 試 ターム科目の授業日
○数字 試 セメスター科目の授業日

入学式	4月4日
オープンキャンパス	未定

注：8月8日（火）は月曜日の振替授業・試験実施日 11月28日（火）は木曜日の振替授業実施日 11月29日（水）は月曜日の振替授業・試験実施日 2月8日（木）は金曜日の振替授業・試験実施日

セメスター科目（○数字）	春～夏学期（第1セメスター）	秋～冬学期（第2セメスター）
学期期間	4月1日～9月30日	10月1日～3月31日
履修登録期間	掲示に従うこと。	掲示に従うこと。
履修取消期間	掲示に従うこと。	掲示に従うこと。
集中講義期間	8月9日～11日	12月26日～28日
補講期間	指定なし。	指定なし。
窓口休止		1月12日

2023(令和5)年度 人文学研究科日本学専攻(応用日本学コース)年間スケジュール

(2023年4月1日～2024年3月31日)

学 期		月 日 (曜)	行 事 等
【春 ～ 夏学期】	4月1日(土)	4月4日(火)	春季入学式
	4月10日(月)	4月初旬	新入生ガイダンス(4月入学者)
	4月11日(火)	4月3日(月)～21日(金)	春～夏学期履修登録
		4月中	[D3⑩] 博士論文題目の提出期限 [M2⑩] 修士論文題目の提出期限
		4月29日(土)	いちょう祭準備(授業休講)
		4月30日(日)～5月1日(月)	いちょう祭(授業休講)
		5月2日(火)	いちょう祭後片付け(授業休講)
		6月9日(金)	[D3⑩] 博士論文の提出期限
		6月中	[D1⑩] 博士論文第1次中間発表会
		7月19日(水)	[M2⑩] 修士論文の提出期限
【秋 ～ 冬学期】		7月下旬	[D3④] 博士論文最終発表会
	8月11日(金)	8月9日(水)～11日(金)	集中講義期間
	8月12日(土)	9月上旬～10月上旬	[M2④] 修士論文最終発表会
		9月～10月中	[D2④] 博士論文第2次中間発表会 [M1⑩] 修士論文中間発表会
	9月30日(土)	9月21日(木)～10月12日(木)	秋～冬学期履修登録
		9月終り～10月初め(予定)	新入生ガイダンス(10月入学者)
	10月2日(月)	10月中	[D3④] 博士論文題目の提出期限 [M2④] 修士論文題目の提出期限
		11月2日(木)	大学祭準備(授業休講)
		11月3日(金)～5日(日)	大学祭(授業休講)
		11月6日(月)	大学祭後片付け(授業休講)
【秋 ～ 冬学期】		12月中	[D1④] 博士論文第1次中間発表会
		12月19日(火)	[D3④] 博士論文の提出期限
	12月28日(木)	12月26日(火)～28日(木)	集中講義期間
	12月29日(金)		
	令和6年 1月3日(水)		
	1月4日(木)	1月中	[D3⑩] 博士論文最終発表会
【秋 ～ 冬学期】		1月12日(金)	授業休講(大学行事のため)
	2月8日(木)	1月19日(金)	[M2④] 修士論文提出期限
		3月中	[M2⑩] 修士論文最終発表会
		3月～4月中	[D2⑩] 博士論文第2次中間発表会 [M1④] 修士論文中間発表会

【凡例】 [M1④]は博士前期課程1年生・4月入学者を、[D3⑩]は博士後期課程3年生・10月入学者を示す

教育目標

学位プログラム「応用日本学」は、大阪大学と人文学研究科の教育目標のもと、次のような能力を身につけた人材を養成することを目的とします。

- ・比較や交流の観点から日本を世界的視野のうちに捉え、日本語・日本文化を通して日本と世界を結びとともに、人類の抱えるグローバルな課題に対しても日本研究の最先端の知見に基づいて積極的な発信を行うことのできる人材
- ・研究成果を国内外に向けて発信し社会実装することのできる高度な俯瞰力、デザイン力及びコミュニケーション力を身につけた人材

比較日本学分野、応用日本語学分野、日本語教育学分野の3分野から成る学位プログラム「応用日本学」は、博士前期課程及び博士後期課程を通じて、上記の能力を兼ね備え社会の多様な分野のプロフェッショナルとして活躍し得る人材の育成に取り組みます。

【博士前期課程】

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

学位プログラム「応用日本学」においては、比較や交流の観点から日本を世界的視野のうちに捉え、その観点から日本語・日本文化についての専門的理解を深めるとともに、先端かつ高度に専門的な日本語・日本文化の理解に立脚して実践的に日本と世界を結ぶことにより、日本研究の領域から人文学の新たな展開に貢献します。

○高度な教養

日本の言語や文化についての比較や交流の観点からの豊かな知見を基礎としつつ、現代にふさわしい高度な情報リテラシーを培い、また複眼的、俯瞰的に思考する訓練を積むことで、対象を多角的に評価できる力を養います。

○高度な国際性

豊かで論理的な日本語能力、日本の言語や文化についての比較や交流の観点からの豊かな知見を基礎としつつ、豊かなコミュニケーションを实らせる高度な多言語運用能力、そして他者や異文化に対する鋭敏な感受性と深い理解力を涵養します。

○高度なデザイン力

3つの分野の特長を縦横に組み合わせ、日本研究の新たな展開に貢献し、その成果を国内外で発信し社会実装するためのデザイン力を養います。

【博士後期課程】

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

学位プログラム「応用日本学」においては、比較や交流の観点から日本を世界的視野のうちにしっかりと位置づけ、その観点から日本語・日本文化についての専門的理解を深めるとともに、先端かつ高度に専門的な日本語・日本文化の理解に立脚して実践的に日本と世界を結ぶことにより、日本研究の領域から人文学の新展開を先導します。

○高度な教養

日本の言語・文化・社会・歴史・文学などについての深い学識を基盤として、現代にふさわしい高度

な情報リテラシーを身につけ、また複眼的、俯瞰的に思考する高度な能力を養うことで、対象を多角的に評価し新たな価値を創造できる力を養います。

○高度な国際性

豊かで論理的な日本語能力、日本の言語や文化についての深い学識を基盤として、豊かなコミュニケーションを实らせる高度な多言語運用能力、他者や異文化に対する鋭敏な感受性と深い理解力、さらには自身の研究成果を広く国際発信しグローバルな知的貢献をなしうる能力を涵養します。

○高度なデザイン力

3つの分野の特長を縦横に組み合わせ、日本研究の新たな地平を切り開き、その成果を国内外で発信し社会実装して、日本研究の立場からイノベーションに貢献するためのデザイン力を養います。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学位プログラム「応用日本学」は、大阪大学と人文学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、日本語・日本文化についての深い理解に立ちつつ学際的・国際的視野から新たな学術的成果を生み出しそれを実践的に社会実装するための修練を積み、伝統的かつ最先端の人文学の知見や、日本の言語と文化に関する高度な専門性と深い学識、教養・国際性・デザイン力に関する下記の能力や学識を身につけ、所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に対し、博士前期課程では修士（日本語・日本文化または学術）、博士後期課程では博士（日本語・日本文化または学術）のいずれかの学位を授与します。

【博士前期課程】

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・明解な論旨で一貫した構成の論文をまとめる確かな論述能力と豊かな文章表現力を有し、日本学に関わる高度な専門的知識を身につけ、先端的な研究に取り組んでいる。
- ・広い視野に立って研究を遂行し、学際的視点からみずからの研究成果を位置づけることのできる深い学識を有している。

○高度な教養

- ・学問全般にわたる幅広い教養と、自立した研究者ならびに高度専門職業人に必要な総合的な人文学的教養、また日本を含む世界の言語・文化・社会・歴史等に関する学際的で現代的な教養を有している。

○高度な国際性

- ・国際的視野に立って研究を遂行し、グローバルな人文学の展開のなかにみずからの専門的な研究成果を位置づけることができるとともに、それを国際的に発信するための言語能力とコミュニケーション・スキルを身につけている。

○高度なデザイン力

- ・日本学の各分野において、本質的に重要な課題を発見し、データや資料の的確な収集・分析を通して、解決の道筋を構想できる能力を有している。
- ・国内外のステークホルダーと的確にコミュニケーションを交わし、みずからの研究成果を社会実装する道筋を構想できる俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力を有している。

【博士後期課程】

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・明晰な論述能力を身につけ、自立した研究者ならびに高度専門職業人に必要な、高度な専門性と高度な研究能力を有し、先端的で独創的な研究に取り組んでいる。
- ・広い視野に立って独創的な研究を遂行し、学際的視点からみずからの先端的かつ高度に専門的な研究成果を積極的に位置づけることのできる深い学識を有している。

○高度な教養

- ・学問全般にわたる高度で幅広い教養と、自立した研究者ならびに高度専門職業人に必要な高度で総合的な人文学的教養、また日本を含む世界の言語・文化・社会・歴史等に関する学際的かつ現代的で高度な教養を有している。

○高度な国際性

- ・国際的視野に立って研究を遂行し、グローバルな人文学の展開のなかにみずからの独創的で高度に専

門的な研究成果を位置づけることができるとともに、それを国際的に発信するための高度な言語能力とコミュニケーション・スキルを身につけている。

○高度なデザイン力

- ・日本学の各分野において、先行研究を広く踏まえつつ、本質的に重要な課題を発見し、データや資料の的確な収集・分析を通して、独創的かつ先端的なかたちで解決の道筋を構想できる能力を有している。
- ・国内外のステークホルダーとの確にコミュニケーションを交わし、みずからの高度な研究成果を効果的に社会実装する道筋を構想できる俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学位プログラム「応用日本学」は、大阪大学と人文学研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、本学位プログラムのディプロマ・ポリシーに掲げられた能力や学識を修得させるため、カリキュラムを以下の方針で編成します。

【博士前期課程】

＜教育課程編成の考え方＞

博士前期課程を通じて、専門教育、教養教育、国際性涵養教育の3つの柱に基づいた科目編成を行い、日本学の最先端かつ高度な専門性と深い学識、高度な教養、高度な国際性、高度なデザイン力を養います。

○専門教育：学位プログラム「応用日本学」の「専門教育科目」は、人文学研究科共通の「研究科共通科目」、日本学専攻共通の「専攻共通科目」、各分野が主体となって開講する「分野開講科目」により構成されます。

- ・「研究科共通科目」：人文学のあらゆる分野に共通の基礎的な知識と研究の方法論、ならびに諸外国語を含め、隣接する分野に関する高度で幅広い知見を培います。特に人文学研究科の必修科目である「人文学基礎（人文学と対話）」では、現代の文化・社会の諸課題に関する最先端の知見を修得させるとともに、問題解決のための思考力を涵養します。
- ・「専攻共通科目」：英語で日本研究の最先端のコンテンツについて講じる英語講義科目、英語による研究発信力の強化を目的とする英語アカデミック・スキル科目を選択科目として開講することにより、日本学専攻の学生一人ひとりがみずからの必要に応じて俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力等を高められるようにします。
- ・「分野開講科目」：分野ごとに開講される科目ですが、一部の高度に専門的な科目以外は、他分野の学生も受講することを前提として開講されます。当該分野で必要となる専門知識と研究能力を教授するとともに、専門性に立脚する日本学専攻の学術的基盤の共有を図ります。
- ・専門教育の一環として、年度ごとに研究計画の提出を課すなど、主体的かつ計画的に研究を構想・遂行するよう促し、高度な専門性を備えた修士論文の完成へと導きます。また、交換留学、私費留学、海外研修、国内外のインターンシップなどへの参加を積極的にサポートすることにより、俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力等の強化を図ります。

○教養教育：人文学研究科の必修科目である「人文学基礎（現代の教養）」を含む「高度教養教育科目」により、専門分野以外の学問分野や領域横断的な分野に関する高度な教養を培います。

○国際性涵養教育：「高度国際性涵養教育科目」により、高度な外国語運用能力、異文化や他者に対する感受性と知識を涵養します。

学位プログラム「応用日本学」のカリキュラムの特徴の1つは、世界中から多様なバックグラウンドを持った優秀な学生を獲得するため、大阪大学で受験する学生を対象とするトラック（実践トラック、4月入学のみ）とは別に、外国人留学生を対象とし、海外からの受験を可能とするトラック（専修トラック、10月入学のみ）が設けられている点です。専修トラックの留学生については、実践トラックの学生との修学背景の違いに配慮し、各指導教員が研究指導科目を開講して、きめ細やかな研究指導・履修指導を行い、多様なバックグラウンドを持った学生がともに学びともに高めあえるようカリキュラム上の工夫がなされています。

＜学修内容及び学修方法＞

学位プログラム「応用日本学」では、「分野開講科目」の履修を通じて、比較や交流の観点から日本を世界的視野のうちに捉え、先端的かつ高度に専門的な日本語・日本文化の理解に立脚して実践的に日本と世界を結ぶことのできる能力を養います。この「分野開講科目」には、各分野の専門科目に加え、全分野共通の基盤となる横断的基礎科目として、総論科目が設けられており、自らが専門とする分野の関連領域についても学べるカリキュラム編成になっています。

学位プログラム「応用日本学」の「分野開講科目」の授業形式は、学生自身による問題解決型の学習を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせて、講義、演習などさまざまな形態をとります。いずれの形態の授業においても、学生が資料収集や分析・考察を行い、学生間で、あるいは学生と教員の間で自由闊達な議論がおこなわれるよう工夫されており、研究成果を説得力を持って他者にわかりやすく伝えるデザイン力の育成が図られています。

また日本語・日本文化を発信する国際的な場で活躍するために必要な、海外での研究集会やワークショップの企画・立案・交渉・運営にかかわる実践的能力を育成するため、海外のジョイントキャンパスを拠点として、現地で日本語・日本文化を専攻する大学院生との学術交流会の実施・運営に従事する機会を提供します。

修士論文は、主指導教員と副指導教員による綿密な指導を受けながら作成を進めることにより、学術的完成度を高めます。

以上と並行して、一人ひとりの関心と必要に応じて「専攻共通科目」を履修することにより、俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力等を高めます。

＜学修成果の評価方法＞

授業の成績は、シラバスに記載されている学習目標の達成度を基準として、シラバスに記載されている方法により評価します。

修士論文については、複数の審査員が、テーマ設定の妥当性、研究の枠組や方法の妥当性、論述の明晰さ、資料の選択や解釈の適切性、主張の独自性などを総合的に判断し、評価します。

【博士後期課程】

＜教育課程編成の考え方＞

博士後期課程を通じて、日本学の最先端かつ高度な専門性と深い学識、高度な教養、高度な国際性、高度なデザイン力を養い、学術的な貢献度の大きい博士論文を完成させます。

博士後期課程の科目は、日本学専攻共通の「専攻共通科目」と、各分野が主体となって開講する「分野開講科目」とにより構成されます。

- ・「専攻共通科目」：英語で日本研究の最先端のコンテンツについて講じる英語講義科目、英語による研究発信力の強化を目的とする英語アカデミック・スキル科目を選択科目として開講することにより、一人ひとりの学生がみずからの必要に応じて俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力等を高められるようにします。
- ・「分野開講科目」：分野ごとに開講し、当該分野で必要となる高度な専門知識と高度な研究能力を教授します。
- ・専門教育の一環として、年度ごとに研究計画の提出を課すなど、主体的かつ計画的に研究を構想・遂行するよう促します。また、逐次研究の進捗状況を確認するとともに助言を与え、最終年次には自立した専門家としての独創性を備えた博士論文を完成させられるよう導きます。さらに、交換留学、私費留学、海外研修、国内外のインターンシップなどへの参加を積極的にサポートすることにより、俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力等の強化を図ります。

＜学修内容及び学修方法＞

博士論文は、主指導教員と副指導教員による綿密な指導を受けながら作成を進めることにより、学術的完成度を高めます。

授業は、学生自身による問題解決型の学習を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせて開講されます。

＜学修成果の評価方法＞

授業の成績は、シラバスに記載されている学習目標の達成度を基準として、シラバスに記載されている方法により評価します。

博士論文については、当該分野の専門家である複数の審査員が、テーマ設定の妥当性、研究の枠組や方法の選択の妥当性、論述の明晰さ、資料の選択や解釈の適切性、主張の独自性、既存の研究に対する学術的貢献度の高さ、新たな研究分野を切り開こうとする意欲、社会実装への展望などを総合的に判断し、評価します。

履 修 要 項

1. 教育方法等

(1) 本研究科の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という）

によって行い、授業科目、授業時間数及びその単位数は、別表Ⅰ又はⅡのとおりとする。

(2) 前期課程授業科目の必修・選択の区分、履修方法は別表Ⅳ（標準的履修例）を参照のこと。

2. 指導教員

学生には、その研究分野に応じて指導教員を定める。

(1) 前期課程においては、学生 1 人につき 2 人の指導教員を定める。

(2) 後期課程においては、学生 1 人につき 3 人の指導教員を定める。

(3) 指導教員のうち 1 人を主指導教員とし、その他の指導教員を副指導教員とする。

3. 履修方法

日本学専攻応用日本学コース

1. 博士前期課程

博士前期課程での履修方法は、別表Ⅳ（標準的履修例）を参照のこと。また、修了要件単位数等は以下のとおりである。

① 博士前期課程の学生は、在学期間中に次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（人文学と対話）」1 単位及び日本学専攻の専門教育科目のうちコースごとに別に定める方法により指定する授業科目 1 2 単位以上を含め、「専門教育科目」を計 2 1 単位以上を修得すること。

(1) 研究科規程別表 1 に定める研究科共通の専門教育科目

(2) 研究科規程別表 1 に定める日本学専攻の専門教育科目

(3) 研究科規程別表 1 に定める他の専攻の専門教育科目

② 博士前期課程の学生は、在学期間中に次の授業科目のうちから、「高度国際性涵養教育科目」を計 2 単位以上修得すること。

(1) 研究科規程別表 1 に定めるすべての高度国際性涵養教育科目

(2) 他の研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で日本学専攻が指定する科目

(3) リーディングプログラム科目で日本学専攻が認める科目

(4) 国際交流科目で日本学専攻が認める科目

③ 博士前期課程の学生は、在学期間中に「高度教養教育科目」を1単位以上修得すること。「高度教養教育科目」に該当する科目は、次のとおりである。

次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（現代の教養）」1単位を含め、計1単位以上を修得すること。

(1) 研究科規程別表1に定めるすべての高度教養教育科目

(2) 他の研究科が高度教養教育科目として提供する科目で日本学専攻が指定する科目

(3) 大学院横断教育科目で日本学専攻が認める科目

(4) リーディングプログラム科目で日本学専攻が認める科目

④ 博士前期課程の学生は、在学期間中に上記①～③の要件を満たし、科目区分ごとに次の単位数以上を修得した上で、かつ、総合計30単位以上を修得すること。履修する科目については、指導教員と相談の上選択するものとする。

・専門教育科目 21単位以上

・高度国際性涵養教育科目 2単位以上

・高度教養教育科目 1単位以上

⑤ 他の研究科の授業科目、大学院横断教育科目、リーディングプログラム科目又は国際交流科目を履修して修得した単位は、10単位を超えない範囲で、④の単位数に充当することができる。希望者は当該科目を履修しようとする学期の履修登録期間内に、箕面キャンパス2階の教務系事務部（以下「箕面事務部」という。）において所定の手続を行うこと。

2. 博士後期課程

博士後期課程の学生は、在学期間中に、次の授業科目のうちから、日本学専攻の専門教育科目のうち、コースの定めるところにより指定する応用日本学コースの「特別研究」4単位以上を含め、計8単位以上を修得すること。履修する科目については、指導教員と相談の上選択するものとする。

- (1) 研究科規程別表 2 に定める研究科共通の専門教育科目
- (2) 研究科規程別表 2 に定める日本学専攻の専門教育科目
- (3) 研究科規程別表 2 に定める他の専攻の専門教育科目

4. 履修及び研究計画書の提出

- (1) 学生は、毎学期始めに、指導教員の指導等に基づいて、履修授業科目を選択の上、所定の期日まで
にKOAN で履修登録をしなければならない。
- (2) 学生は、各年次の始めに、指導教員の指導等に基づいて、研究計画を立て、所定の期日までに「研
究計画書(所定様式)」を作成し、箕面事務部に提出しなければならない。
- (3) 学生は、各年次の所定の期日までに「研究概要報告書(所定様式)」を作成し、指導教員の確認を受
けなければならない。
- (4) 履修登録方法等は、修学上の注意及び諸手続の《学修に関する事項》「1. 履修登録について」(25
ページ)を参照してください。

5. 履修科目の試験

- (1) 履修した授業科目の試験は、筆記試験もしくは口頭試験又は研究報告によって行うものとする。
- (2) 試験は、春～夏学期末又は秋～冬学期末に行う。ただし、必要があるときは、臨時に行うことがあ
る。

6. 単位の認定

- (1) 試験に合格した授業科目については、所定の単位を認定する。
- (2) 各授業科目の成績の評価は、100点を満点として次の5段階で表し、S、A、B及びCを合格、Fを
不合格とする。

S (90点以上) A (80点以上90点未満) B (70点以上80点未満) C (60点以上70点未満)

F (60点未満)

7. 修士論文の提出及び最終試験

- (1) 修士論文を提出しようとする学生は、1年以上在学し、所定の授業科目を30単位以上修得又は修得

見込みで、かつ、必要な研究指導を受けていなければならない。

(2) 修士論文題目は、主指導教員の承認を得て、あらかじめ指定する期日までに箕面事務部を通じて研究科長に提出しなければならない。

(3) 最終試験は、修士論文の審査委員会が修士論文及びこれに関連のある授業科目について筆記試験又は口頭試験により行い、その報告に基づいて、研究科教授会が合否を決定する。

(4) 修士論文作成要領等は、修学上の注意及び諸手続の《学修に関する事項》「3. 修士論文について」(26ページ)を参照してください。

8. 博士論文の提出及び最終試験

(1) 在学中に博士論文を提出しようとする学生は、後期課程に2年以上在学し、所定の授業科目を8単位以上修得又は修得見込みで、必要な研究指導を受け、かつ、次項に定める基礎資格を満たしていなければならない。

(2) 前項の基礎資格は、以下の(イ及び(ロの要件を満たしていることとする。

(イ 公的な学会の機関誌、又はそれに準ずる学会誌に1編以上の論文を掲載し、かつ、公的な学会において、1回以上研究発表していること、又はこれと同等以上と認められる研究業績を有すること。

(ロ 博士論文最終発表会で報告していること。

(3) 博士論文題目は、主指導教員の承認を得て、あらかじめ指定する期日までに箕面事務部を通じて研究科長に提出しなければならない。

(4) 博士論文及びその他提出書類は、あらかじめ指定する期日までに箕面事務部を通じて研究科長に提出しなければならない。

(5) 最終試験は、博士論文の審査委員会が博士論文及びこれに関連のある授業科目について筆記試験又は口頭試験により行い、その報告に基づいて、研究科教授会が合否を決定する。

(6) 本研究科の後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた後、退学した者は、退学後3年以内にあつては、前項までの規定に準じて博士論文を提出し、最終試験を受けることができる。

なお、論文審査及び最終試験に合格した場合は、課程博士の学位を取得することができる。

(7) 博士論文の作成要領等については、修学上の注意及び諸手続の《学修に関する事項》「4. 博士論文について」（26ページ）を参照してください。

9. 他の大学院又は外国の大学院等における授業科目等の履修

(1) 研究科教授会の議を経て研究科長が教育上有益と認めるときは、学生に他の大学院又は外国の大学の授業科目を1. 教育方法等(1)に定める授業科目として履修させることができる。

(2) (1)による授業科目の履修期間は1年とする。ただし、更に期間の延長を希望する者は、1年ごとに期間の延長を願い出て許可を受けなければならない。

(3) (1)により他の大学院又は外国の大学院等において授業科目等の履修をしようとする学生は、所定の手続きを行い、許可を得なければならない。

(4) 修得した単位については、審査の上、3. 履修方法①に定める授業科目の単位として認定することができる。

(5) (4)による単位認定は、博士前期課程にあつては3. 履修方法④による単位と合わせて15単位を限度とする。

10. 入学前の既修得単位の認定

(1) 研究科教授会の議を経て研究科長が教育上有益と認めるときは、学生が本研究科入学前に他の大学院において修得した授業科目の単位を審査のうえ、本研究科において修得したものとして認定することができる。

(2) (1)による単位認定を受けようとする学生は、所定の手続きに従い研究科長に願い出るものとする。

(3) (1)による単位認定は、15単位を限度とする。（ただし、9. 他の大学院又は外国の大学院等における授業科目等の履修に定める方法により認定された単位と合わせて20単位を超えないものとする）――

別表 I

日本学専攻(応用日本学コース):前期課程 授業科目表

研究科共通

区分	授 業 科 目	単 位 数		備 考
		春～夏学期	秋～冬学期	
人文学 基礎科目	人文学基礎(人文学と対話)	1		必修科目
	人文学基礎(現代の教養)	1		必修科目
実務 研究 科目	人文学実務研究	1		
	人文学インターンシップ		1	
デジタル ヒューマ ニティー ーズ	デジタルヒューマニティーズ基礎			
	デジタルヒューマニティーズ特殊講義			
Euroc ulture 科目	European Philosophy from the Japanese Perspective		2	
	European History from the Japanese Perspective		2	
	European Literature from the Japanese Perspective		2	
	Japanese History in the World		2	
	Japanese Literature in the World		2	
	Japanese Art in the World		2	
	Language, Society and Culture in Contemporary Japan		2	
基盤 科目	ジェンダー・セクシュアリティ研究基礎講義		2	
	歴史学方法論講義(各論1)	2	2	
	歴史学方法論講義(各論2)	2	2	
言語特 別演習	言語特別演習 A・B	2	2	
外国 語科 目 1	アジア・アフリカ諸語 I - 1	1		
	アジア・アフリカ諸語 I - 2		1	
	ヨーロッパ諸語 1	1		
	ヨーロッパ諸語 2		1	
	古典語 I	2		
	古典語 II		2	
	古代ギリシア語		2	
外国 語科 目 2	英語	1	1	
	現代イタリヤ語 A・B	2	2	
	古代イタリヤ語 A・B	2	2	
	カシヤン語	2		
	シオン語	2		
	オセニ語 A・B	2	2	
	サンスクリット語 A・B	2	2	
	パルリ語 A・B	2	2	
	ペルシア語	2		
	ウイグル語		2	
	カザフ語 A・B	2	2	
	ヘブライ語 A・B	2	2	
	アラブ語	2		
	アラビア語		2	
	フロッグ語 A・B	2	2	
	西・南アフリカ語 A・B	2	2	
	古代教会スラブ語 A・B	2	2	
	ウクライナ語 A・B	2	2	
	ポルトガル語 A・B	2	2	
	エストニア語	2		
	スウェーデン語	2	2	
	セルビア語 A・B	2	2	
	チェコ語 A・B	2	2	
	スロバキア語	2		
	マダガスカル語	2	2	
	ブルガリア語	2	2	
	ルーマニア語	2	2	
	ギリシア語	2	2	
	ロシア語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	
	ベトナム語	2	2	
	フィリピン語	2	2	
	インドネシア語	2	2	
	タイ語	2	2	

専攻横断

区分	授 業 科 目	単 位 数		備 考
		春～夏学期	秋～冬学期	
M L E 科目	ヨ ー ロ ッ パ の 哲 学 学 I	2		
	ヨ ー ロ ッ パ の 哲 学 学 II		2	
	ヨ ー ロ ッ パ の 哲 学 学 III	2		
	ヨ ー ロ ッ パ の 哲 学 学 IV	2		
	ヨ ー ロ ッ パ の 哲 学 学 V		2	
	ヨ ー ロ ッ パ の 哲 学 学 VI		2	
	ヨ ー ロ ッ パ の 現 代 I	2		
	ヨ ー ロ ッ パ の 現 代 II		2	

日本学専攻(応用日本学コース)

区分	授 業 科 目	単 位 数		備 考
		春～夏学期	秋～冬学期	
専 攻 共 通	Basic Academic Skills for Humanities 1	2		
	Basic Academic Skills for Humanities 2		2	
	Advanced Academic Skills for Humanities 1	2		
	Advanced Academic Skills for Humanities 2		2	
	Introduction to Contemporary Japanese Studies 1	2		
	Introduction to Contemporary Japanese Studies 2		2	
	Issues in Contemporary Japanese Studies 1	2		
	Issues in Contemporary Japanese Studies 2		2	
比 較 日 本 学 分 野	比 較 日 本 学 研 究 総 論		2	
	比 較 日 本 文 化 研 究 I	2		
	比 較 日 本 文 化 研 究 II		2	
	比 較 日 本 文 化 研 究 III	2		
	比 較 日 本 文 化 研 究 IV		2	
	比 較 日 本 文 化 研 究 V	2		
	比 較 日 本 文 化 研 究 VI		2	
	比 較 日 本 文 化 研 究 VII	2		
応 用 日 本 語 学 分 野	比 較 日 本 文 化 研 究 VIII		2	
	比 較 日 本 学 研 究 指 導 A・B	2	2	
	応 用 日 本 語 学 研 究 総 論	2		
	日 本 語 学 研 究 I	2		
	日 本 語 学 研 究 II		2	
	日 本 語 学 研 究 III	2		
	日 本 語 学 研 究 IV		2	
	日 本 語 学 研 究 V	2		
日 本 語 教 育 学 分 野	日 本 語 学 研 究 VI		2	
	日 本 語 学 研 究 VII	2		
	日 本 語 学 研 究 VIII		2	
	日 本 語 学 研 究 IX		2	
	言 語 学 研 究 I	2		
	言 語 学 研 究 II		2	
	応 用 日 本 語 学 研 究 指 導 A・B	2	2	
	日 本 語 教 育 学 研 究 総 論	2		
日 本 語 教 育 学 分 野	日 本 語 教 育 学 研 究 I		2	
	日 本 語 教 育 学 研 究 II	2		
	日 本 語 教 育 学 研 究 III	2		
	日 本 語 教 育 学 研 究 IV		2	
	日 本 語 教 育 学 研 究 V		2	
	日 本 語 教 育 学 研 究 VI	2		
	日 本 語 教 育 学 研 究 VII		2	
	日 本 語 教 育 学 研 究 指 導 A・B	2	2	

※基盤日本学コースの科目一覧は基盤日本学コースのページにて確認して下さい

別表Ⅱ

日本学専攻(応用日本学コース):後期課程授業科目表

授 業 科 目		単 位 数		備 考
		春～夏学期	秋～冬学期	
専攻科目	比較日本学特別研究 A・B	2	2	
	日本語学特別研究 A・B	2	2	
	対照言語学特別研究 A・B	2	2	
	日本語教育学特別研究 A・B	2	2	

標準的コース別履修例（日本学専攻 応用日本学コース 博士前期課程）

別表Ⅳ

	授業科目	単位数		実践トラ	専修トラ	備考
		春～夏 学期	秋～冬 学期	必修 (選択必修)	必修 (選択必修)	
基 礎 文 学	人文学基礎(人文学と対話)	1		1	1	
	人文学基礎(現代の教養)	1		1	1	
実 務 研 究	人文学実務研究	1				
	人文学インターンシップ		1			
デ ジ タル ヒ ュー マ ニ ティ ーズ	デジタルヒューマニティーズ基礎		2			
	デジタルヒューマニティーズ特殊講義		1			
E u r o p e a n S t u d i e s	European Philosophy from the Japanese Perspective		2			
	European History from the Japanese Perspective		2			
	European Literature from the Japanese Perspective		2			
	Japanese History in the World		2			
	Japanese Literature in the World		2			
	Japanese Art in the World		2			
	Language, Society and Culture in Contemporary Japan		2			
基 礎 講 義	ジェンダー・セクシュアリティ研究基礎講義		2			
	歴史学方法論講義(各論1～2)	2	2			
演 習 語 学	言語特別演習A～B	2	2			
科 外 国 語 1	アジア・アフリカ諸語Ⅰ～Ⅱ	1または2	1または2			
	～ 英語					
科 外 国 語 2	アイス語	2	2			
	～ ブルガリア語A・B 他					
専 攻 共 通	Basic Academic Skills for Humanities 1～2	2	2			○実践トラック 「比較日本学分野」、「応用日本学分 野」、「日本語教育学分野」の3分野から 各4単位以上を選択履修すること。
	Advanced Academic Skills for Humanities 1～2	2	2			
	Introduction to Contemporary Japanese Studies 1～2	2	2			
	Issues in Contemporary Japanese Studies 1～2	2	2			
野 本 比 較 分 野	比較日本学研究総論		2	4	2	○専修トラック (1) 各分野域の総論科目（「比較日本学研 究総論」、「応用日本語学研究総論」、 「日本語教育学研究総論」）の中から必ず 2科目4単位を選択履修すること。 (2) 研究指導科目（「比較日本学研究指導 A・B」、「応用日本語学研究指導A・ B」、「日本語教育学研究指導A・B」） を各セメスターごとに履修し、4科目8単位 を必修とする。
	比較日本文化研究Ⅰ～Ⅷ	2	2		選択	
	比較日本学研究指導A・B	2	2		2	
分 野 用 日 本 学	応用日本語学研究総論	2		4	2	
	日本語学研究Ⅰ～Ⅸ	2	2		選択	
	言語学研究Ⅰ～Ⅱ	2	2			
	応用日本語学研究指導A・B	2	2		2	
分 教 日 野 育 本 学 語	日本語教育学研究総論	2		4	2	
	日本語教育学研究Ⅰ～Ⅶ	2	2		選択	
	日本語教育学研究指導A・B	2	2		2	

①専門教育科目	在学中に人文学基礎(人文学と対話) 1 単位、各コースの必修及び選択必修科目を含め、計 2 1 単位以上修得すること。
②高度国際性涵養教育科目	在学中に大阪大学大学院人文学研究科規程の 別表 1 に定めるすべての高度国際性涵養教育科目、他の研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で日本学専攻が指定する科目、リーディングプログラム科目で日本学専攻が認める科目、国際交流科目で日本学専攻が認める科目のうち 2 単位以上修得すること。
③高度教養教育科目	人文学基礎(現代の教養) 1 単位を修得すること。



総合計	上記①～③の条件を満たし、かつ、総合計 3 0 単位以上を修得すること。
-----	--------------------------------------

①博士前期課程研究指導プログラム（4月入学者）

年次	学期	プログラム	内 容 等	手続	提出先	提出期限 又は 実施期間
1	春 夏 学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		4月3日～ 4月21日
		「研究計画書」の提出	1年次の研究計画の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	4月中
	秋 冬 学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		9月21日～ 10月12日
		「修士論文構想」の提出	A4判、横40字、縦30行、横書2,000字程度で作成	院生→主指導教員	主指導教員	10月中
		「研究概要報告書」の提出	1年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	2月中
2	春 夏 学期	中間発表会	修士論文に関する発表	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		3～4月中
		予備審査面接	中間発表を終えた者に対して教員が面接	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		3～4月中
		「研究計画書」の提出	2年次の研究計画の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	4月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		4月3日～ 4月21日
		修士論文テーマの決定及び修士論文概要の提出	書式等は指導教員の指示に従うこと	院生→←主指導教員	主指導教員	6月中
		最終発表会	修士論文のテーマと概要を提出した者が修士論文について最終発表を行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		9月上旬～ 10月上旬
	秋 冬 学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		9月21日～ 10月12日
		「修士論文題目」の提出	最終発表会を終えた者が修士論文題目届を提出	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	10月中
		「修士論文」の提出	学位申請書、修士論文要旨、修士論文の提出	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	1月9日～ 1月19日
		「研究概要報告書」の提出	2年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	2月中

②博士前期課程研究指導プログラム（10月入学者）

■新入生(2023年10月入学者)

年次	学期	プログラム	内 容 等	手続	提出先	提出期限 又は 実施期間
1	秋 冬 学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		10月1日～ 10月12日
		「研究計画書」の提出	1年次の研究計画の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	10月中

■在学者(2023年4月時点の在学年次に応じ、下記(1)又は(2)を参照のこと)

(1) 1年次在学者

年次	学期	プログラム	内 容 等	手続	提出先	提出期限 又は 実施期間
1	春 夏 学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		4月3日～ 4月21日
		「修士論文構想」の提出	A4判、横40字、縦30行、横書2,000字程度で作成	院生→主指導教員	主指導教員	4月中
		「研究概要報告書」の提出	1年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	8月中
2	秋 冬 学期	中間発表会	修士論文に関する発表	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		9月～ 10月中
		予備審査面接	中間発表を終えた者に対して教員が面接	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		9月～ 10月中
		「研究計画書」の提出	2年次の研究計画の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	10月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		9月21日～ 10月12日
		修士論文テーマの決定及び修士論文概要の提出	書式等は指導教員の指示に従うこと	院生→←主指導教員	主指導教員	12月中
		最終発表会	修士論文のテーマと概要を提出した者が修士論文について最終発表を行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		3月中

(2) 2年次在学者

年次	学期	プログラム	内 容 等	手続	提出先	提出期限 又は 実施期間
2	春 夏 学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		4月3日～ 4月21日
		「修士論文題目」の提出	最終発表会を終えた者が修士論文題目届を提出	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	4月中
		「修士論文」の提出	学位申請書、修士論文要旨、修士論文の提出	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	7月3日～ 7月19日
		「研究概要報告書」の提出	2年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	8月中

③博士後期課程研究指導プログラム（4月入学者）

年次	学期	プログラム	内 容 等	手続	提出先	提出期限 又は 実施期間
1	春 ～ 夏 学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→主指導教員		4月3日～ 4月21日
		「研究計画書」の提出	1年次の研究計画の報告	院生→主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	4月中
		学術誌等への論文発表又はこれと同等以上の研究業績等		院生→主指導教員		3年次の「博士論文題目届」提出時迄に終えていること
	秋 ～ 冬 学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→主指導教員		9月21日～ 10月12日
		「博士論文構想」の提出	A4判、横40字、縦30行、横書2,000字程度で作成	院生→主指導教員	主指導教員	10月中
		第1次中間発表会	指導教員の指示により発表会を行う	院生→主指導教員 ↓ 箕面事務部		12月中
2	春 ～ 夏 学期	「研究計画書」の提出	2年次の研究計画の報告	院生→主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	4月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→主指導教員		4月3日～ 4月21日
		「博士論文のテーマ、論文概要」の提出	博士論文のテーマの決定、論文概要の提出。書式等は主指導教員の指示に従うこと	院生→主指導教員	主指導教員	6月中
		予備審査面接	実施計画及び実施済報告書は主指導教員が行う	院生→主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	9月～ 10月中
		第2次中間発表会	指導教員の指示により発表会を行う	院生→主指導教員 ↓ 箕面事務部		9月～ 10月中
	秋 ～ 冬 学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→主指導教員		9月21日～ 10月12日
		「研究概要報告書」の提出	2年次の研究概要の報告	院生→主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	2月中
	春 ～ 夏 学期	「研究計画書」の提出	3年次の研究計画の報告	院生→主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	4月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→主指導教員		4月3日～ 4月21日
		最終発表会	指導教員の指示により発表会を行う（発表及びドラフトを指導教員に提出する）	院生→主指導教員 ↓ 箕面事務部		7月下旬
	秋 ～ 冬 学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→主指導教員		9月21日～ 10月12日
		「博士論文題目届」の提出	※単位修得退学を予定している者は必ず提出のこと	院生→主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	10月中 又は翌年の 4月中
		「博士論文」等の提出	学位申請書、博士論文、日本語及び外国語要旨、履歴書、研究業績書等の提出 ※単位修得退学を希望する者は、学位申請書のみ提出	院生→主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	12月1日～ 12月19日 又は翌年の 6月1日～ 6月9日
		「研究概要報告書」の提出	3年次の研究概要の報告	院生→主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	2月中

④博士後期課程研究指導プログラム（10月入学者）

■新入生(2023年10月入学者)

年次	学期	プログラム	内 容 等	手続	提出先	提出期限 又は 実施期間
1	秋 冬 学 期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→主指導教員		10月1日～ 10月12日
		「研究計画書」の提出	1年次の研究計画の報告	院生→主指導教員 ↓ 質面事務部	質面事務部	10月中
		学術誌等への論文発表又はこれと同等以上の研究業績等		院生→主指導教員		3年次の「博士論文題目届」提出時迄に終えていること

■在学者(2023年4月時点の在学年次に応じ、下記(1)、(2)又は(3)を参照のこと)

(1) 1年次在学者

年次	学期	プログラム	内 容 等	手続	提出先	提出期限 又は 実施期間
1	春 夏 学 期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→主指導教員		4月3日～ 4月21日
		「博士論文構想」の提出	A4判、横40字、縦30行、横書2,000字程度で作成	院生→主指導教員	主指導教員	4月中
		第1次中間発表会	指導教員の指示により発表会を行う	院生→主指導教員 ↓ 質面事務部		6月中
		「研究概要報告書」の提出	1年次の研究概要の報告	院生→主指導教員 ↓ 質面事務部	質面事務部	8月中
2	秋 冬 学 期	「研究計画書」の提出	2年次の研究計画の報告	院生→主指導教員 ↓ 質面事務部	質面事務部	10月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→主指導教員		9月21日～ 10月12日
		「博士論文のテーマ、論文概要」の提出	博士論文のテーマの決定、論文概要の提出。書式等は主指導教員の指示に従うこと	院生→主指導教員	主指導教員	12月中
		予備審査面接	実施計画及び実施済報告書は主指導教員が行う	院生→主指導教員 ↓ 質面事務部	質面事務部	3月～ 4月中
		第2次中間発表会	指導教員の指示により発表会を行う	院生→主指導教員 ↓ 質面事務部		3月～ 4月中

(2) 2年次在学者

年次	学期	プログラム	内 容 等	手続	提出先	提出期限 又は 実施期間
2	春 夏 学 期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→主指導教員		4月3日～ 4月21日
		「研究概要報告書」の提出	2年次の研究概要の報告	院生→主指導教員 ↓ 質面事務部	質面事務部	8月中
3	秋 冬 学 期	「研究計画書」の提出	3年次の研究計画の報告	院生→主指導教員 ↓ 質面事務部	質面事務部	10月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→主指導教員		9月21日～ 10月12日
		最終発表会	指導教員の指示により発表会を行う(発表及びドラフトを指導教員に提出する)	院生→主指導教員 ↓ 質面事務部		1月中

(3) 3 年次在学者

年次	学期	プログラム	内 容 等	手続	提出先	提出期限 又は
3	春 夏 学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→主指導教員		4月3日～ 4月21日
		「博士論文題目届」の提出	※単位修得退学を予定している者は必ず提出のこと	院生→主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	4月中 又は 10月中
		「博士論文」等の提出	学位申請書、博士論文、日本語及び外国語要旨、履歴書、研究業績書等の提出 ※単位修得退学を希望する者は、学位申請書のみ提出	院生→主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	6月1日～ 6月9日 又は 12月1日～ 12月19日
		「研究概要報告書」の提出	3年次の研究概要の報告	院生→主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	8月中

《学修に関する事項》

1. 履修登録について

(1) 履修登録方法

1. 人文学研究科規程に定める履修方法及び指導教員の指導等に基づいて、あらかじめシラバスを参照し、時間割コードを調べておくこと。
2. 学務情報システム（KOAN）にログインし、履修登録・登録状況照会メニューから登録する。
3. 人文学研究科以外の授業科目を履修する場合は、指導教員の承認を得たのち、当該授業担当教員の承諾を得ておくこと。
4. 登録期間中は、登録済の授業科目の変更も可能である。
5. 他専攻、他研究科の授業科目、リーディングプログラム科目又は国際交流科目を履修し、その単位を修了要件の単位として認定を希望する場合は、「他専攻、他研究科等授業科目単位認定願」を箕面事務室教務係に提出すること。

※学務情報システム（KOAN）について

大阪大学の学務情報システムは、Knowledge of Osaka university Academic Nucleus の頭文字をとってKOAN と愛称で呼ばれています。

インターネットを通じて授業科目の履修登録や成績照会などができます。

また、休講情報や掲示板サービスもあり、携帯電話サイトも利用できます。

KOANの起動方法は以下のとおりです。

1. Web ブラウザを起動する。
2. <https://my.osaka-u.ac.jp/> にアクセスする。
3. 全学IT 認証のログイン画面が表示されます。
4. 「大阪大学個人 ID」と「パスワード」でログインする。

2. 研究指導について

博士前期課程

(1) 研究指導教員

主指導教員 1 名、副指導教員 1 名、計 2 名の指導教員により研究指導が行われる。

研究計画書に記載された指導教員は、専攻会議で正式に決定される。なお、予定の指導教員と異なる決定があった場合は、あらためて履修計画書を正式決定された指導教員に提出し直すこと。

(2) 研究指導プログラム

博士前期課程では「博士前期課程研究指導プログラム」（20・21頁参照）のように研究指導が行われる。それぞれの時期に行われる研究指導プログラムを修了しなければ次のプログラムへ進めないの、十分に注意して定められた時期に必ず必要な手続きを行い、研究指導を受ける

こと。

博士後期課程

(1) 研究指導教員

主指導教員 1 名、副指導教員 2 名、計 3 名の指導教員により研究指導が行われる。

(2) 研究指導プログラム

博士後期課程では「博士後期課程研究指導プログラム」（22・23頁参照）のように研究指導が行われる。それぞれの時期に行われる研究指導プログラムを修了しなければ次のプログラムへ進めないで、十分に注意して定められた時期に必ず必要な手続を行い、研究指導を受けること。

3. 修士論文について

①修士論文題目届

(1) 最終発表会を終えた者は、修士論文を提出しようとする年の指定された日までに主指導教員の承認を得た「修士論文題目届」を提出しなければならない。この届出がなされていない場合は、修士論文を作成しても受理されないで、特に注意すること。

(2) 箕面事務室配付の所定用紙により、主指導教員の印を得たうえで箕面事務室へ提出すること。

②学位申請書

(1) 箕面事務室配付の所定用紙を使用すること。

(2) 修士論文提出時に 1 部提出すること。

③修士論文

(1) A 4 判の用紙を使用し、縦方向、横書きで作成すること。ただし、特段の必要があり、指導教員が必要と認めた場合は、縦書きで作成することも可とする。

(2) 使用言語、執筆枚数、記入要領は主指導教員の指示に従うこと。

(3) 正 1 部、副 3 部の計 4 部を指定された日までに箕面事務室に提出すること。表紙及び製本方法は箕面事務室の指示に従うこと。

④修士論文の要旨

(1) 日本語要旨・外国語要旨をつけること。日本語要旨は2000字程度、外国語要旨は500語程度で、書式は本文に準ずる。

(2) 正 1 部、副 3 部の計 4 部提出すること。

4. 博士論文について

①博士論文題目届

(1) 最終発表会を終えた者は、指定された日までに主指導教員の承認を得た「博士論文題目届」を提出しなければならない。この届出がなされていない場合は、博士論文を作成しても受理されないで、特に注意すること。

(2) 所定用紙により、主指導教員の印を得たうえで箕面事務室に提出すること。

②博士論文

(1) A 4 判の紙を使用し、縦方向、横書きで作成すること。ただし、特段の必要があり、指導教員が必要と認めた場合は、縦書きで作成することも可とする。

(2) 使用言語、執筆枚数は主指導教員の指示に従うこと。

外国語：30行／1 頁（1 行65ストロークを目安とする。）

日本語：30行／1 頁（1 行40字を目安とする。）

※縦書きとする場合

・ A 4 判の紙を使用し、縦方向で作成する。

・ 各頁は 2 段組みとし、各段30字・23行を目安とする。

(3) 日本語要旨・外国語要旨を付けること。日本語要旨は4000字程度、外国語要旨は1000語程度で、書式は本文に準ずる。（ただし、論文が縦書きの場合も、要旨については横書きで作成すること。）

(4) その他、適宜主指導教員の指示に従うこと。

(5) 正 1 部、副 5 部の計 6 部を提出すること。表紙及び製本方法は箕面事務室の指示に従うこと。

③その他の提出書類

(1) 学位申請書(所定の様式) 1 部

(2) 履歴書(所定の様式) 6 部

(3) 研究業績書(所定の様式) 6 部

(4) 博士論文のインターネット公表（大学機関リポジトリ掲載）確認書（所定の様式） 1 部

※本研究科において、全文の公表の可否又は保留とする判断を行う。

5. 授業科目の試験における留意事項について

人文学研究科日本学専攻応用日本学コースの授業科目の試験等において次の不正行為を行った者については、教育課程上の処分として、原則当該学期に履修した人文学研究科日本学専攻応用日本学コースの全授業科目の成績を無効とするほか、大阪大学大学院学則の規定に基づき懲戒処分を行うことがあるので、留意すること。

(1) 持込を許可されたテキスト、ノート、辞書等以外のものを使用した場合

(2) カンニングペーパーの使用等カンニングとみなされる行為を行った場合

(3) 代人受験とみなされる行為を行った場合

(4) その他試験監督者の指示に従わない場合

(5) 授業担当教員が成績評価の対象として求めるレポート等の提出物において、他人の論文、著作、レポート、ウェブサイト、インターネット投稿、講義配布物（公表・未公表を問わない。）の一部又は全部を剽窃した場合

6. 修士論文及び博士論文作成に際しての留意事項について

修士論文及び博士論文（以下この項において「学位論文」という。）の作成に際して、他人の文章の一部又は全部を引用する場合は、必ずその出典を明記し、自分の書いた文章でないことを明示する必要がある。

提出された学位論文において出典の記載がない場合は、盗用する意図の有無にかかわらず剽窃とみなし、教育課程上の処分として、原則提出された論文を不合格とするほか、大阪大学大学院学則の規定に基づき懲戒処分を行うことがあるので、留意すること。

7. 教育職員免許状取得について

教育職員免許状を取得するために必要な科目・単位数、免許状交付の申請手続き等の詳細は、教職課程ブックレット又は大阪大学ホームページで確認してください。

専修免許状を取得しようとする場合は、学部で課程で一種免許状に必要な単位を全て充足した上で、大学院で「大学が独自に設定する科目」を24単位修得しなければなりません。「大学が独自に設定する科目」については、基盤日本学コースの科目表をご参照ください。

《その他の手続き及び提出書類》

1. 証明書類の発行について

(1) 学生証

新入生は、入学手続時に、写真(3か月以内に撮影したもので上半身、無背景、脱帽、26×32cm)1枚を持参し、箕面事務室で、学生証の交付申請をすること。

なお、次のことに注意すること。

(ア) 学生証は常に携帯し、本学職員の請求を受けたときはいつでもこれを提示すること。

(イ) 修了、退学、除籍となったとき又は有効期限が経過したときは直ちに学生証を返却すること。

(ウ) 標準年限（前期課程は2年、後期課程は3年）を超えて在学する者については、新年度4月に、有効期限が1年間延長された学生証が発行されるので、古い学生証と交換で受け取ること。

(エ) 汚損、紛失などの理由により、学生証の再発行を受けようとする者は、学生センターで再発行申請をすること。

(オ) 姓名等、記載事項に変更が生じたときは、直ちに申し出ること。

(2) 通学証明書

通学証明書は、大学院の正規課程に在学する学生に限り交付する。

通学定期乗車券発行控に通学区間を記入したものが通学証明書の代用となる。

通学定期乗車券を購入の際は、各社の指定する「購入申し込み書」に記入のうえ、「学生証」、「通学定期乗車券発行控」と以前使用の定期券を添えて申し込むこと。

(3) 学校学生生徒旅客運賃割引証、在学証明書、成績証明書、前期課程修了見込み証明書

学生証を利用して証明書自動発行機により窓口を経ずに自動発行される。

学割証の発行枚数は、旅客鉄道株式会社及び文部科学省の定めるところにより、年間1人当たり10枚を限度として発行される。

修了証明書及び後期課程修了見込み証明書を必要とする者は、所定の交付願に提出先・使用目的等を明記し、受領を希望する日の2週間前までに、箕面事務室へ申し込むこと。

(4) 健康診断証明書

就職その他の理由によりこれを必要とする者には、その年度に行われる本学の定期健康診断受検者に限り、キャンパスライフ健康支援センターが発行する。

2. 休学・復学・退学・留学の願出について

休学・復学・退学・留学を願い出ようとする者は、必ず事前（原則として1か月前）に、理由を具し、所定の様式により箕面事務室を通じて研究科長又は総長に願い出ること。

なお、病気の理由による休学・復学・退学の場合は医師の診断書を添付し、留学の場合は、「留学希望期間中、留学先大学に在学し、研究する」という証明になるものを添付すること。

3. 住所、姓名、保護者(保証人)住所の変更届について

住所、保護者(保証人)住所の変更が生じたときは、KOAN にアクセスし、新住所を入力すること。

姓名の変更が生じたときは、速やかに所定の様式により箕面事務室を通じて研究科長に届け出ること。

4. 就職に関する届出について

修了予定年次の学生は、進路・就職の報告をWEB上から必ず行うこと。
<https://cs-web.osaka-u.ac.jp/report/#/>

5. その他の提出書類について

その他の提出書類に関しては、掲示に従うこと。

日本学専攻

(応用日本学コース)

専攻	教授	准教授	講師	助教
日本学専攻 (応用日本学コース)	今井 忍	櫻井 千穂	儀利古 幹雄	秦 秀美
	岩井 茂樹	佐野 方郁	鴻野 知暁	
	岩井 康雄	柴田 芳成	立川 真紀絵	
	加藤 均	高井 美穂		
	岸田 泰浩	永原 順子		
	五之治 昌比呂	松村 薫子		
	小森 万里	水野 亜紀子		
	荘司 育子	村田 真実		
	筒井 佐代	山川 太		
	中田 一志	山泉 実		

コミュニケーションデザイン科目及び CO デザイン科目について

■教育プログラムの目的

大阪大学は、高等教育における新しい教育の目標として〈高度汎用力〉の育成を掲げています。CO デザインセンターは人をつなぎ、知識をつなぎながら、ともに創出する力を身につけるための学部・研究科横断型の新しい高度教養・高度汎用力育成プログラムの研究開発と教育にあたっています。

「コミュニケーションデザイン科目」は、対話することを通して、課題を発見し、ともにその解決をめざし、社会のなかで実践するための基礎的な教育プログラムとして学部生、大学院生を対象に開講されています。

また、「CO デザイン科目」は、さまざまな現実の社会課題の解決を目指したアドバンスト・プログラムとして、より系統的に社会実践力を修養するための科目群として大学院学生を対象に開かれています。

■コミュニケーションデザイン科目及び CO デザイン科目の修得単位について

コミュニケーションデザイン科目及び CO デザイン科目が修了要件単位に算入できるか否かについては、各研究科によって取り扱いが異なりますので、履修に際しては、事前に指導教員や所属研究科の教務担当窓口に必ず相談してください。

■履修手続方法について

コミュニケーションデザイン科目と CO デザイン科目の履修登録は、全学で統一された「他部局科目の履修登録期間」内に KOAN（学務情報システム）から行ってください（<https://koan.osaka-u.ac.jp>）。

■大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラムについて

大阪大学では、大学院教育における高度教養教育の更なる展開に向けて導入された「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム（Double-Wing Academic Architecture, DWAA）」を推進しており、その一環として、大学院に入学した学生を中心に、学生が所属する主専攻の教育課程以外の教育プログラムを履修できる「**大学院副専攻プログラム**」、「**大学院等高度副プログラム**」を提供しています。

「大学院副専攻プログラム」、「大学院等高度副プログラム」は、学生が所属する主専攻の教育課程以外の内容を学んだり、あるいは主専攻の専門性を生かすための関連分野を学んだりするための教育プログラムです。主専攻の学修と並行して、用意されたプログラム科目を効果的に受講することで、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野を養うことを目的としています。

どちらのプログラムも、教育目標に沿った一定のまとまりのある授業科目で構成されており、各プログラムが定める要件を満たすことで、当該プログラムの修了認定証が交付されます。

なお、2023年度は「大学院副専攻プログラム」24プログラム、「大学院等高度副プログラム」44プログラムが実施されます。

また、「大学院等高度副プログラム」のうち、一部のプログラムは「**大学院科目等履修生高度プログラム**」として、社会人に対しても提供されています。

各プログラムの詳細については、以下の URL もしくは QR コードからご参照ください。

※大学院の新入生にはプログラムのパンフレットを別途配布します。

<https://itgp.osaka-u.ac.jp/programs/list/advanced/>



■学際融合教育科目について

本学における横断型教育（学部・研究科の枠を超えた学び）の、より一層の充実を目指して、複眼的視野を涵養するための授業科目として「**学際融合教育科目**」を設置しています。

学際融合教育科目は、全学の大学院学生に開講していますので、興味のある方は是非履修してみてください。

※学際融合教育科目は、大学院横断教育科目の科目区分の一つとして開講しています。

詳細については、それぞれのシラバスを参照してください。

※履修登録は、全学で統一された「他部局科目の履修登録期間」内に KOAN（学務情報システム）から行ってください（<https://koan.osaka-u.ac.jp>）。

※大学院横断教育科目の単位認定についての取り扱いは、研究科によって対応が異なります。修了要件への算入可否については、事前に指導教員や所属研究科の教務担当窓口を確認してください。

詳細については、以下の URL もしくは QR コードからご参照ください。

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/education/fukusenkou/gakusai>



学術交流協定に基づく外国の大学への留学について

人文学研究科は以下の海外の大学との間で、学生交流の覚書を締結し、相互に学生の派遣と受け入れを行う協定を結んでいます。（外国学専攻又は日本学専攻(応用日本学コース)教員がコンタクトパーソンをしている大学）※網かけが日本学専攻(応用日本学コース)の協定校

北京語言大学	中国	ジャワールハルラール・ネルー大学	インド
上海外国語大学	中国	ティラク・マハーラーシュトラ大学	インド
大連理工大学	中国	デリー大学	インド
西北大学	中国	カイロ大学	エジプト
国立台湾師範大学	台湾	アスワン大学	エジプト
ウダヤナ大学	インドネシア	エジプト日本科学技術大学	エジプト
アンダラス大学	インドネシア	ウラル連邦大学	ロシア
アル・ラニーリ国立イスラーム大学	インドネシア	モスクワ言語大学	ロシア
コーンケン大学	タイ	タラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学	ウクライナ
シラバコン大学	タイ	カーロリ・ガシュパールカルビン派大学	ハンガリー
チュラロンコン大学	タイ	セゲド大学	ハンガリー
ランシット大学	タイ	ハイデルベルク大学	ドイツ
マヒドン大学	タイ	フランクフルト応用科学大学	ドイツ
カセサート大学	タイ	ベルゲン大学	ノルウェー
ハノイ大学	ベトナム	プラハ・カレル大学	チェコ
ハロン大学	ベトナム	ヴェネツィア・カフォスカリ大学	イタリア
ホアセン大学	ベトナム	ミラノ大学	イタリア
ホーンバーン国際大学	ベトナム	フルミネンセ連邦大学	ブラジル
ハノイ師範大学	ベトナム	ストックホルム大学	スウェーデン
ホーチミン市師範大学	ベトナム	ルンド大学	スウェーデン
マンダレー大学	ミャンマー	ウェリントン・ヴィクトリア大学	ニュージーランド
ヤンゴン外国語大学	ミャンマー	サマルカンド国立大学	ウズベキスタン

※その他、大学間交流協定校149校あり

- 1 学生の派遣期間は原則として1年以内です。
- 2 派遣された大学での授業料は免除されます。
- 3 派遣された大学で修得した単位は審査の上、履修要項にあるとおり定められた範囲内で本研究科で修得した単位として認定されます。
- 4 派遣希望者の選考は本研究科で行い、最終決定は派遣先の大学が行います。
- 5 派遣人数など詳細については箕面事務部教務係に問い合わせてください。

大阪大学大学院人文学研究科規程

(趣旨及び目的)

第1条 この規程は、大阪大学大学院学則（以下「学則」という。）に基づき、大阪大学大学院人文学研究科（以下「本研究科」という。）における必要な事項を定めるものとする。

2 本研究科は、多様な個人及び社会集団が生み出してきた言語、事物、思考、習慣等の精神文化及び物質文化の両面にわたる人間の営為を探究する人文学研究を継承しつつ、専門性にとらわれることなく領域横断的で柔軟に発想する能力並びに現代社会のグローバル化及び情報化に即応した最新の技術を活用する力を身に付けることにより、現代にふさわしい人文学をデザインし、今日的課題に果敢に挑戦し、そこで得られた知見を世界に向けて発信し得る人材を養成することを目的とする。

(課程及び専攻)

第2条 本研究科の課程は、博士課程とする。

2 博士課程は、これを前期2年の課程（以下「前期課程」という。）及び後期3年の課程（以下「後期課程」という。）に区分する。

3 本研究科に、次の専攻を置く。

人文学専攻

言語文化学専攻

外国学専攻

日本学専攻

芸術学専攻

(コース)

第3条 各専攻（言語文化学専攻を除く。）に、次のコースを置く。

人文学専攻

哲学コース、グローバルヒストリー・地理学コース、文学コース、比較・対照言語学コース

外国学専攻

アジア・アフリカ言語文化コース、ヨーロッパ・アメリカ言語文化コース

日本学専攻

基盤日本学コース、応用日本学コース

芸術学専攻

アート・メディア論コース、美学・文芸学コース、音楽学・演劇学コース、日本東洋美術史・西洋美術史コース

(入学)

第4条 本研究科に入学を志願する者については、研究科長は、研究科教授会（以下「教授会」という。）の議を経て選考するものとする。

(教育方法)

第5条 本研究科の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行う。

2 前項に規定する授業科目は、講義、演習又は実習によって行い、単位の計算は、次のとおりとする。

(1) 講義は15時間をもって1単位とする

(2) 演習は15時間又は30時間をもって1単位とする。

(3) 実習は45時間をもって1単位とする。

(指導教員)

第6条 学生には、その研究分野、在籍するコース等に応じて指導教員を定める。

2 学生には、前項に定める指導教員のほか、必要に応じて副指導教員を定める。

3 指導教員及び副指導教員は教授とする。ただし、教授会の議を経て研究科長が必要と認めたときは、准教授又は専任講師をもって代えることができる。

4 前3項に定めるもののほか、指導教員及び副指導教員に関し必要な事項は、別に定める。

(前期課程の授業科目及び単位数)

第7条 前期課程の授業科目、単位数及び必修・選択の区分等は、別表1のとおりとする。

2 前項の授業科目の配当年次、授業時間数等は、教授会の議を経て別に定める。

(後期課程の授業科目及び単位数)

第8条 後期課程の授業科目、単位数及び必修・選択の区分等は、別表2のとおりとする。

2 前項の授業科目の配当年次、授業時間数等は、教授会の議を経て別に定める。

(前期課程の履修方法等)

第9条 前期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、別表3に定める履修方法により、30単位以上を修得しなければならない。

2 前期課程の学生は、研究科長が教育上有益と認めるときは、他の専攻若しくは他の研究科の授業科目、大学院横断教育科目、リーディングプログラム科目又は国際交流科目を履修することができる。

3 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、第5条第1項に規定する授業科目として単位認定を行うとともに、別表3の定めるところにより、第1項に規定する単位に充当することができる。

(後期課程の履修方法等)

第10条 後期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、別表4に定める履修方法により、8単位以上を修得しなければならない。

2 後期課程の学生は、研究科長が教育上有益と認めるときは、他の専攻若しくは他の研究科の授業科目、大学院横断教育科目、リーディングプログラム科目又は国際交流科目を履修することができる。

3 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、第5条第1項に規定する授業科目として単位認定を行うとともに、別表4の定めるところにより、第1項に規定する単位に充当することができる。

(履修及び研究計画の届出)

第11条 学生は、授業科目を履修し、かつ、研究指導を受けるため、指導教員の指示に基づき、毎学年の始めの所定の期日までに、履修計画及び研究計画を定め、届け出なければならない。

(履修科目の試験)

第12条 第5条第1項に規定する授業科目の試験は、筆記試験若しくは口頭試験又は研究報告によって行うものとする。

2 前項の規定による試験は、学期末、学年末その他授業科目担当教員の都合等により適当な時期に行う。

(単位の授与)

第13条 前条の規定による試験に合格した授業科目については、所定の単位を授与する。

(研究指導)

第14条 第5条第1項に規定する研究指導を受けたことの認定は、研究概要の報告に基づき指導教員が行う。

- 2 学生は、学年ごとに研究指導を受け、毎学年末に研究概要を報告しなければならない。
- 3 前2項に定めるもののほか、研究指導に関し必要な事項は、別に定める。

(長期にわたる課程の履修)

第15条 学生が職業を有していること等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、研究科長は、その計画的な履修を認めることができる。

- 2 前項の規定により計画的な履修を許可する学生に関し必要な事項は、別に定める。

(他の大学院等又は外国の大学院等における学修等及び単位等の認定)

第16条 教授会の議を経て研究科長が教育上有益と認めるときは、学生に他の大学院又は外国の大学院の授業科目を第5条第1項に規定する授業科目として履修させることができる。

- 2 教授会の議を経て研究科長が教育上有益と認めるときは、学生に他の大学院等又は外国の大学院等において研究指導を受けさせることができる。
- 3 前項の規定による研究指導を受ける期間は1年とする。ただし、前期課程の学生が研究指導を受ける場合を除き、必要があるときは1年ごとに期間の延長を願い出て許可を得なければならない。
- 4 前3項の規定に基づき、授業科目を履修し、又は研究指導を受けようとする学生は、あらかじめ所定の手続によって申請し、許可を得なければならない。
- 5 前項の規定により、授業科目の履修を許可された学生が修得した単位は、審査の上、これを第9条第1項又は第10条第1項に規定する授業科目の単位として認定することができる。
- 6 第4項の規定により、研究指導を受けることを許可された学生は、審査の上、これを第5条第1項に規定する研究指導として認定することができる。
- 7 第5項の規定により、第9条第1項又は第10条第1項に規定する授業科目として認定することができる単位は、15単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位の認定)

- 8 教授会の議を経て研究科長が教育上有益と認めるときは、学生が行う学校教育法第105条の規定により大学院が編成する特別の課程(履修資格を有する者が、同法第102条第1項の規定により大学院に入学できる者であるものに限る。次条においても同じ。)における学修を、第5条第1項に規定する授業科目の履修とみなし、審査の上、これを第9条第1項又は第10条第1項に規定する授業科目の単位として認定することができる。
- 9 前項の規定により修得したものとして認定し、第9条第1項又は第10条第1項に規定する授業科目の単位に充当することのできる単位は、第7項に規定する単位と合わせて15単位を超えないものとする。

第17条 教授会の議を経て研究科長が教育上有益と認めるときは、学生が本研究科入学前に大学院において修得した授業科目の単位(大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第15条において準用する大学設置基準(昭和38年文部省令第28号)第31条第1項に規定する科目等履修生及び同条第2項に規定する課程履修生として修得した単位を含む。)を審査の上、本研究科において修得したものとして認定することができる。

- 2 前項の規定により修得したものとして認定し、第9条第1項又は第10条第1項に規定する授業科目の単位に充当することのできる単位は、15単位を超えないものとし、前条第7項に規定する単位と合わせて20単位を超えないものとする。

(学位論文の提出)

第18条 修士論文を提出しようとする学生は、前期課程に1年以上在学し、第9条第1項に規定する単位を修得又は修得見込みで、かつ、必要な研究指導を受けていなければならない。た

だし、在学期間1年をもって第9条第1項に規定する単位を修得し得る者で、教授会の議を経て研究科長が優れた研究業績を上げたものと認めた学生については、この限りでない。

- 2 博士論文を提出しようとする学生は、後期課程に2年以上在学し、第10条第1項に規定する単位を修得又は修得見込みで、かつ、必要な研究指導を受けていなければならない。ただし、修士課程又は前期課程における在学期間（2年を限度とする。）と後期課程における在学期間を合計して3年以上で、かつ、後期課程の在学期間が2年以内となる在学期間をもって第10条第1項に規定する単位を修得し得る者及び入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められ後期課程に入学し、1年以上2年以内となる当該課程の在学期間をもって第10条第1項に規定する単位を修得し得る者で、教授会の議を経て研究科長が優れた研究業績を上げたものと認めた学生については、この限りでない。
- 3 学位論文の題目は、指導教員の承認を得て、あらかじめ指定する期日までに研究科長に届け出なければならない。
- 4 学位論文は、あらかじめ指定する期日までに研究科長に提出しなければならない。
- 5 芸術学専攻に在籍する学生は、学則第15条第1項に規定する特定の課題についての研究の成果を、修士論文に代えて提出することができるものとし、次条第1項に規定する修士論文の審査は、当該研究の成果に対して、これを行うものとする。
- 6 博士論文の提出に当たっては、あらかじめ博士論文の提出の可否を審査する予備審査に合格していなければならない。
- 7 学位論文及び予備審査に関し必要な事項は、別に定める。

（学位論文の審査及び最終試験）

第19条 修士論文の審査及び最終試験は、教授会において委嘱する教授2名以上又は教授1名及び准教授1名の2名以上の委員からなる審査委員会がこれを行う。

- 2 博士論文の審査及び最終試験は、教授会において委嘱する教授2名を含む3名以上の委員からなる審査委員会がこれを行う。
- 3 学位論文の審査に当たって必要があるときは、教授会の議を経て、他の大学院等の教員等の協力を得ることができる。
- 4 前期課程の最終試験は、第9条第1項に規定する単位を修得し、研究指導の認定を受け、かつ、修士論文を提出した者について行う。
- 5 後期課程の最終試験は、第10条第1項に規定する単位を修得し、研究指導の認定を受け、かつ、博士論文を提出した者について行う。
- 6 最終試験は、審査した学位論文及びこれに関連のある授業科目について、筆記試験又は口頭試験により行う。
- 7 学位論文及び最終試験の可否は、審査委員会の議を経て、教授会が審議のうえ議決する。

（特別研究学生）

第20条 他の大学院又は外国の大学院に在学する学生で本研究科において研究指導を受けようとする者は、所定の手続により研究科長に願い出るものとする。

- 2 前項の規定による出願者については、選考の上、特別研究学生として入学を許可する。
- 3 特別研究学生の在学期間は、1年以内とする。ただし、研究上必要があり引き続き在学を希望する者は、1年を超えない範囲で研究科長に期間の延長を願い出て、許可を得なければならない。

（特別聴講学生）

第21条 他の大学院等又は外国の大学院等に在学する学生で、本研究科の授業科目を履修しようとする者は、所定の手続により研究科長に願い出るものとする。

- 2 前項の規定による出願者については、選考の上、特別聴講学生として入学を許可する。
- 3 特別聴講学生の在学期間は、履修する授業科目所定の授業期間とする。
- 4 特別聴講学生が履修する授業科目の試験及び単位の授与については、第12条及び第13条の規定を準用する。

(科目等履修生)

第22条 本研究科の授業科目中1又は複数の授業科目を履修しようとする者は、所定の手続により研究科長に願い出るものとする。

- 2 前項の規定による出願者については、選考の上、科目等履修生として入学を許可する。
- 3 科目等履修生として入学することができる者は、別に定める。
- 4 科目等履修生の入学時期は、春学期又は秋学期の始めとする。
- 5 科目等履修生の在学期間は、履修する授業科目所定の授業期間とする。ただし、引き続き在学し、授業科目の履修を希望する者は、研究科長に願い出て許可を受けた場合に限り、期間を延長することができる。
- 6 科目等履修生が履修する授業科目の試験及び単位の授与については、第12条及び第13条の規定を準用する。

(研究生)

第23条 本研究科において特定事項について攻究しようとする者は、所定の手続により研究科長に願い出るものとする。

- 2 前項の規定による出願者については、選考の上、研究生として入学を許可する。
- 3 研究生として入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
 - (1) 修士の学位を有する者
 - (2) 教授会の議を経て、研究科長が前号と同等以上の学力があると認めた者
- 4 前項の規定にかかわらず、教授会の議を経て、研究科長が認めたときは、大学又は専門職大学を卒業した者若しくはこれと同等以上の学力がある者を研究生として入学させることができる。
- 5 研究生の入学時期は、学年の始めとする。ただし、特別の事情があるときは、この限りでない。
- 6 研究生の在学期間は1年以内とする。ただし、研究上必要があり引き続き在学を希望する者は、1年を超えない範囲で研究科長に期間の延長を願い出て、許可を得なければならない。

(規格外事項の処理)

第24条 この規程に定めるもののほか、本研究科に関する必要な事項は、教授会の議を経て、研究科長が定める。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

前期課程授業科目表

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
人文学基礎科目	人文学基礎（人文学と対話）	1			○			
	人文学基礎（現代の教養）	1					○	
実務研究科目	人文学実務研究			1	○			
	人文学インターンシップ			1	○			
デジタルヒューマニティーズ科目	デジタルヒューマニティーズ基礎			2	○			
	デジタルヒューマニティーズ特殊講義			1	○			
Euroculture科目	European Philosophy from the Japanese Perspective			2	○			
	European History from the Japanese Perspective			2	○			
	European Literature from the Japanese Perspective			2	○			
	Japanese History in the World			2	○			
	Japanese Literature in the World			2	○			
	Japanese Art in the World			2	○			
	Language, Society and Culture in Contemporary Japan			2	○			
基盤科目	ジェンダー・セクシュアリティ研究基礎講義			2	○			
	歴史学方法論講義（各論1）			2	○	○		
	歴史学方法論講義（各論2）			2	○	○		
言語特別演習	言語特別演習 A			2		○		
	言語特別演習 B			2		○		
外国語科目 1	アジア・アフリカ諸語 1 - 1			1	○			
	アジア・アフリカ諸語 1 - 2			1	○			
	ヨーロッパ諸語 1			1	○			
	ヨーロッパ諸語 2			1	○			
	古典語 I			2	○			
	古典語 II			2	○			
	イタリア語			2	○			
	ロシア語			2	○			
	英語			1	○			
	アドバンスト・アカデミック・ライティング			2	○			
外国語科目 2	アイヌ語			2		○		
	現代チベット語 A			2		○		
	現代チベット語 B			2		○		
	古典チベット語 A			2		○		
	古典チベット語 B			2		○		
	カレン語			2		○		
	シャン語			2		○		
	オセアニア諸語 A			2		○		
	オセアニア諸語 B			2		○		
	サンスクリット語 A			2		○		
	サンスクリット語 B			2		○		
	バーリ語 A			2		○		
	バーリ語 B			2		○		
	ベンガル語			2		○		
	ウイグル語			2		○		
	カザフ語 A			2		○		
	カザフ語 B			2		○		
	ヘブライ語 A			2		○		
	ヘブライ語 B			2		○		
	アラム語			2		○		
	アフロアジア諸語			2		○		
	西アフリカ諸語 A			2		○		
	西アフリカ諸語 B			2		○		
	東・南アフリカ諸語 A			2		○		
	東・南アフリカ諸語 B			2		○		
	古代教会スラブ語 A			2		○		
	古代教会スラブ語 B			2		○		
	ウクライナ語 A			2		○		
	ウクライナ語 B			2		○		
	ポーランド語 A			2		○		
	ポーランド語 B			2		○		
	リトアニア語 A			2		○		
	リトアニア語 B			2		○		
	エスペラント語			2		○		
	ラテン語 A			2		○		
	ラテン語 B			2		○		
	セルビア語 A			2		○		
	セルビア語 B			2		○		
	チェコ語 A			2				

		単位数	科目区分	
--	--	-----	------	--

区分	授業科目	必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	備考
哲学コース	哲学哲学史講義Ⅰ		2		○	○		哲学哲学史分野
	哲学哲学史講義Ⅱ		2		○	○		
	哲学哲学史演習Ⅰ		2		○			
	哲学哲学史演習Ⅱ		2		○			
	現代哲学講義Ⅰ		2		○	○		
	現代哲学講義Ⅱ		2		○	○		
	現代哲学演習Ⅰ		2		○			
	現代哲学演習Ⅱ		2		○			
	言語哲学講義Ⅰ		2		○	○		
	言語哲学講義Ⅱ		2		○	○		
	言語哲学演習Ⅰ		2		○			
	言語哲学演習Ⅱ		2		○			
	認識論講義		2		○	○		
	認識論演習		2		○			
	存在論講義Ⅰ		2		○	○		
	存在論講義Ⅱ		2		○	○		
	存在論演習		2		○			
	哲学哲学史修士論文作成演習		2		○			
	科学技術社会論講義Ⅰ		2		○	○		科学技術社会論分野
	科学技術社会論講義Ⅱ		2		○	○		
	科学技術思想史講義Ⅰ		2		○	○		
	科学技術思想史講義Ⅱ		2		○	○		
	科学技術社会論演習Ⅰ		2		○			
	科学技術社会論演習Ⅱ		2		○			
	科学技術思想史演習Ⅰ		2		○			
	科学技術思想史演習Ⅱ		2		○			
	科学技術社会論修士論文作成演習Ⅰ		2		○			
	科学技術社会論修士論文作成演習Ⅱ		2		○			
	倫理学講義		2		○	○		臨床哲学分野
	倫理学演習Ⅰ		2		○			
	倫理学演習Ⅱ		2		○			
	倫理学演習Ⅲ		2		○			
	臨床哲学講義		2		○	○		
	臨床哲学演習		2		○			
	ジェンダー・セクシュアリティ研究基礎演習		2		○			
	社会哲学講義		2		○	○		
	社会哲学演習		2		○			
	臨床哲学修士論文作成演習		2		○			
	哲学対話Ⅰ		2		○			中国哲学分野
	哲学対話Ⅱ		2		○			
	漢籍資料学演習		2		○			
	中国哲学演習Ⅰ		2		○			
	中国哲学演習Ⅱ		2		○			
	中国哲学講義Ⅰ		2		○	○		
	中国哲学講義Ⅱ		2		○	○		
	中国哲学修士論文作成演習		4		○			
	インド学・仏教学講義		2		○	○		インド学・仏教学分野
	インド学・仏教学演習Ⅰ		2		○			
	インド学・仏教学演習Ⅱ		2		○			
	インド学修士論文作成演習		2		○			
	仏教学修士論文作成演習		2		○			
	インド学講義		2		○	○		
	インド学演習		2		○			
	仏教学講義		2		○	○		
	仏教学演習		2		○			
グローバルヒストリー・地理学コース	人文地理学講義Ⅰ		2		○	○		人文地理学分野
	人文地理学講義Ⅱ		2		○	○		
	人文地理学講義Ⅲ - 1		2		○	○		
	人文地理学講義Ⅲ - 2		2		○	○		
	人文地理学講義Ⅲ - 3		2		○	○		
	人文地理学演習		2		○			
	自然地理学講義		2		○	○		
	地誌学講義		2		○	○		
	人文地理学修士論文作成演習		4		○			
	地域文化空間論講義		2		○	○		
	人間・環境関係論講義		2		○	○		
	東洋史講義		2		○	○		東洋史学分野
	東洋史総合演習		2		○			
	東アジア史講義Ⅰ - 1		2		○	○		
	東アジア史演習Ⅰ - 1		2		○			
	東アジア史演習Ⅰ - 2		2		○			
	東アジア史演習Ⅰ - 3		2		○			
	東アジア史演習Ⅰ - 4		2		○			
	東アジア史リサーチ演習Ⅰ - 1		2		○			
	東アジア史リサーチ演習Ⅰ - 2		2		○			
	東アジア史リサーチ演習Ⅰ - 3		2		○			
	東アジア史リサーチ演習Ⅰ - 4		2		○			
	東アジア史講義Ⅱ - 1		2		○	○		
	東アジア史演習Ⅱ - 1		2		○			
	東アジア史演習Ⅱ - 2		2		○			
	東アジア史演習Ⅱ - 3		2		○			
	東アジア史演習Ⅱ - 4		2		○			
	東アジア文献学演習Ⅱ - 1		2		○			

	東アジア文献学演習Ⅱ - 2	2	○			
	東アジア文献学演習Ⅱ - 3	2				
	東アジア文献学演習Ⅱ - 4	2	○			
	中央ユーラシア史講義Ⅰ - 1	2	○	○		
	中央ユーラシア史演習Ⅰ - 1	2	○			
	中央ユーラシア史演習Ⅰ - 2	2	○			
	中央ユーラシア史演習Ⅰ - 3	2	○			
	中央ユーラシア史演習Ⅰ - 4	2	○			
	中央ユーラシア文献学演習Ⅰ - 1	2	○			
	中央ユーラシア文献学演習Ⅰ - 2	2	○			
	中央ユーラシア文献学演習Ⅰ - 3	2	○			
	中央ユーラシア文献学演習Ⅰ - 4	2	○			
	東洋史修士論文作成演習Ⅰ	2	○			
	東洋史修士論文作成演習Ⅱ	2	○			
	中央ユーラシア史修士論文作成演習Ⅰ	2	○			
	世界史演習Ⅲ	2	○			
	歴史学方法論講義（概論）	2	○	○		
	西洋古代史講義	2	○	○		西洋史学分野
	西洋古代史リサーチ演習1	2	○			
	西洋古代史リサーチ演習2	2	○			
	西洋古代史リサーチ演習3	2	○			
	西洋古代史リサーチ演習4	2	○			
	西洋古代史資料講読演習1	2	○			
	西洋古代史資料講読演習2	2	○			
	西洋古代史資料講読演習3	2	○			
	西洋古代史資料講読演習4	2	○			
	西洋中世史講義	2	○	○		
	西洋中世史リサーチ演習1	2	○			
	西洋中世史リサーチ演習2	2	○			
	西洋中世史リサーチ演習3	2	○			
	西洋中世史リサーチ演習4	2	○			
	西洋中世史資料講読演習1	2	○			
	西洋中世史資料講読演習2	2	○			
	西洋中世史資料講読演習3	2	○			
	西洋中世史資料講読演習4	2	○			
	西洋近世史講義	2	○	○		
	西洋近世史リサーチ演習1	2	○			
	西洋近世史リサーチ演習2	2	○			
	西洋近世史リサーチ演習3	2	○			
	西洋近世史リサーチ演習4	2	○			
	西洋近世史資料講読演習1	2	○			
	西洋近世史資料講読演習2	2	○			
	西洋近世史資料講読演習3	2	○			
	西洋近世史資料講読演習4	2	○			
	西洋近現代史講義Ⅰ	2	○	○		
	西洋近現代史講義Ⅱ - 1	2	○	○		
	西洋近現代史講義Ⅱ - 2	2	○	○		
	西洋近現代史リサーチ演習Ⅰ - 1	2	○			
	西洋近現代史リサーチ演習Ⅰ - 2	2	○			
	西洋近現代史リサーチ演習Ⅱ - 1	2	○			
	西洋近現代史リサーチ演習Ⅱ - 2	2	○			
	西洋近現代史演習1	2	○			
	西洋近現代史演習2	2	○			
	世界史講義Ⅰ	2	○	○		
	世界史講義Ⅱ	2	○	○		
	世界史リサーチ演習1	2	○			
	世界史リサーチ演習2	2	○			
	世界史演習Ⅱ - 1	2	○			
	世界史演習Ⅱ - 2	2	○			
	西洋史演習	1	○			
	西洋史修士論文作成演習	2	○			
	歴史学方法論講義（概論）	2	○	○		
	世界史演習Ⅰ	4	○			
	グローバルヒストリー・地理学入門	2	○			
	グローバルセミナー演習1	2	○			
	グローバルセミナー演習2	2	○			
	歴史・地理教育インターンシップ	1	○			
文学コース	中国文学講義Ⅰ	2	○	○		テキスト表現論中国文学分野
	中国文学講義Ⅱ	2	○	○		
	中国文学演習Ⅰ	2	○			
	中国文学演習Ⅱ	2	○			
	中国文学修士論文作成演習Ⅰ	2	○			
	中国文学修士論文作成演習Ⅱ	2	○			
	英文学作品研究演習	4	○			テキスト表現論英米文学分野
	英文学史講義Ⅰ	2	○	○		
	英文学史講義Ⅱ - 1	2	○	○		
	英文学史講義Ⅱ - 2	2	○	○		
	英文学史講義Ⅲ	2	○	○		
	英文学作品研究演習Ⅰ - 1	2	○			
	英文学作品研究演習Ⅰ - 2	2	○			
	アメリカ文学史講義Ⅰ	2	○	○		
	アメリカ文学史講義Ⅱ - 1	2	○	○		
	アメリカ文学史講義Ⅱ - 2	2	○	○		
	アメリカ文学作品研究演習Ⅰ - 1	2	○			
	アメリカ文学作品研究演習Ⅰ - 2	2	○			

	アメリカ文学作品研究演習Ⅱ - 1	2	○			
	アメリカ文学作品研究演習Ⅱ - 2	2	○			
	イギリス文化史講義	2	○	○		
	アメリカ文化史講義	2	○	○		
	英文学作品研究修士論文作成演習	2	○			
	アメリカ文学作品研究修士論文作成演習	2	○			
	ドイツ語学演習	2	○			テキスト表現論ドイツ文学分野
	ドイツ語文学講義	2	○	○		
	ドイツ語文学演習	2	○			
	ドイツ語文学テキスト論講義	2	○	○		
	ドイツ語文学テキスト論演習	2	○			
	ドイツ文化・芸術論講義	2	○	○		
	ドイツ文化・芸術論演習	2	○			
	中欧文化論講義	2	○	○		
	中欧文化論演習	2	○			
	ドイツ文学・思想論講義	2	○	○		
	ドイツ文学・思想論演習	2	○			
	ドイツ語文学修士論文作成演習	2	○			
	フランス文学講義1	2	○	○		テキスト表現論フランス文学分野
	フランス文学講義2	2	○	○		
	フランス文学演習Ⅰ - 1	2	○			
	フランス文学演習Ⅰ - 2	2	○			
	フランス文学演習Ⅱ - 1	2	○			
	フランス文学演習Ⅱ - 2	2	○			
	フランス文学演習	4	○			
	フランス語学講義1	2	○	○		
	フランス語学講義2	2	○	○		
	フランス語学演習1	2	○			
	フランス語学演習2	2	○			
	フランス文学史講義1	2	○	○		
	フランス文学史講義2	2	○	○		
	フランス文学史演習1	2	○			
	フランス文学史演習2	2	○			
	フランス文学作品研究講義1	2	○	○		
	フランス文学作品研究講義2	2	○	○		
	フランス文学作品研究演習1	2	○			
	フランス文学作品研究演習2	2	○			
	フランス文学作品研究演習	4	○			
	フランス文学作品研究修士論文作成演習	2	○			
	テキスト環境論講義	2	○	○		テキスト環境論分野
	テキスト環境論演習	2	○			
	文化翻訳論演習	2	○			
	文学テキスト論講義	2	○	○		
	文学テキスト論演習	2	○			
	理論文学研究演習	2	○			
	テキスト実践論演習	2	○			
	物語越境論講義	2	○	○		
	物語越境論演習	2	○			
	比較文学比較文化論講義	2	○	○		
	比較文学比較文化論演習	2	○			
	比較文学研究講義	2	○	○		
	比較文学研究演習	2	○			
	テキスト分析講義	2	○	○		
	テキスト分析演習	2	○			
	テキスト環境論修士論文作成演習	2	○			
比較・対照言語学 コース	英語学講義Ⅰ	2	○	○		比較・対照言語学分野
	英語学講義Ⅱ	2	○	○		
	英語学演習Ⅰ	2	○			
	英語学演習Ⅱ	2	○			
	比較・対照言語学修士論文作成演習	2	○			
	比較言語学講義	2	○	○		
	英語史講義	2	○	○		
	理論言語学講義	2	○	○		
	機能言語学演習	2	○			
	対照言語学講義	2	○	○		
	英語史演習	2	○			
	英語音声学講義	2	○	○		
	対照言語学演習	2	○			

言語文化学専攻

授業科目	単位数			科目区分			備考
	必修	選択 必修	選択	専門教育 科目	高度国際 性涵養教 育科目	高度教養 教育科目	
研究実践基礎	1			○			
研究発表演習	1			○			
超領域文化論A		2		○			
超領域文化論B		2		○			
ジェンダー論A		2		○			
ジェンダー論B		2		○			
グローバルゼーション論A		2		○			
グローバルゼーション論B		2		○			
言語文化共生論A		2		○			
言語文化共生論B		2		○			
言語文化形成論A		2		○			
言語文化形成論B		2		○			

表象文化論 A	2	○		
表象文化論 B	2	○		
言語文化比較交流論 A	2	○		
言語文化比較交流論 B	2	○		
翻訳研究 A	2	○		
翻訳研究 B	2	○		
コミュニケーション論 A	2	○		
コミュニケーション論 B	2	○		
語用論研究 A	2	○		
語用論研究 B	2	○		
言語技術研究 A	2	○		
言語技術研究 B	2	○		
社会言語学研究 A	2	○		
社会言語学研究 B	2	○		
応用言語学研究 A	2	○		
応用言語学研究 B	2	○		
第二言語研究法 A	2	○		
第二言語研究法 B	2	○		
第二言語教育方法論 A	2	○		
第二言語教育方法論 B	2	○		
第二言語教育実践研究 A	2	○		
第二言語教育実践研究 B	2	○		
第二言語社会・文化研究 A	2	○		
第二言語社会・文化研究 B	2	○		
理論言語学 A	2	○		
理論言語学 B	2	○		
心理言語学 A	2	○		
心理言語学 B	2	○		
史的言語研究 A	2	○		
史的言語研究 B	2	○		
言語統計学 A	2	○		
言語統計学 B	2	○		
デジタルヒューマニティーズ A	2	○		
デジタルヒューマニティーズ B	2	○		
言語認知科学論 A	2	○		
言語認知科学論 B	2	○		
認知言語学研究 A	2	○		
認知言語学研究 B	2	○		
認知意味理論研究 A	2	○		
認知意味理論研究 B	2	○		
認知レトリック論研究 A	2	○		
認知レトリック論研究 B	2	○		

外国学専攻

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
研究基礎	研究基礎		2		○		★	
広域言語論	広域言語実践論 I A		2		○			
	広域言語実践論 I B		2		○			
	広域言語実践論 II A		2		○			
	広域言語実践論 II B		2		○			
	広域言語実践論 III A		2		○			
	広域言語実践論 III B		2		○			
	広域言語実践論 IV A		2		○			
	広域言語実践論 V A		2		○			
	広域言語実践論 V B		2		○			
	広域言語実践論 VI A		2		○			
	広域言語文化論 I A		2		○			
	広域言語文化論 I B		2		○			
	広域言語文化論 II A		2		○			
	広域言語文化論 II B		2		○			
	広域言語文化論 III A		2		○			
	広域言語文化論 III B		2		○			
	広域言語文化論 IV A		2		○			
	広域言語文化論 IV B		2		○			
	広域言語文化論 V A		2		○			
	広域言語文化論 V B		2		○			
	広域対照言語論 I A		2		○			
	広域対照言語論 I B		2		○			
	広域対照言語論 II A		2		○			
	広域対照言語論 II B		2		○			
	広域対照言語論 III A		2		○			
	広域対照言語論 III B		2		○			
	広域対照言語論 IV A		2		○			
	広域対照言語論 IV B		2		○			
	広域対照言語論 V A		2		○			
	広域対照言語論 V B		2		○			
地域言語論	アジア言語構造論 I A		2		○			
	アジア言語構造論 I B		2		○			
	アジア言語構造論 II A		2		○			
	アジア言語構造論 II B		2		○			
	アジア言語構造論 III A		2		○			
	アジア言語構造論 III B		2		○			
	アジア言語構造論 IV A		2		○			

	アジア言語社会動態論ⅦB	2	○		
	アジア言語社会動態論ⅦA	2	○		
	アジア言語社会動態論ⅦB	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅠA	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅠB	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅡA	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅡB	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅢA	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅢB	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅣA	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅣB	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅤA	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅤB	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅥA	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅥB	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅦA	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅦB	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅧA	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅧB	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅨA	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅨB	2	○		
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅩA	2	○		
	イギリス言語社会動態論ⅠA	2	○		
	イギリス言語社会動態論ⅠB	2	○		
	アメリカ言語社会動態論ⅠA	2	○		
	アメリカ言語社会動態論ⅠB	2	○		
地域言語社会特論	世界文学・文化論	2	○		★
	現代英米政治外交史特殊研究	2	○		
	英米言語社会論	2	○		
	Global Area Studies A	2	○		
	Global Area Studies B	2	○		
	グローバル地域社会論A	2	○		★
	グローバル地域社会論B	2	○		★
	グローバル地域研究演習A	2	○		
	グローバル地域研究演習B	2	○		
	グローバル地域研究方法論	2	○		
	世界の言語	2	○		★
	世界の言語事情	2	○		★
複合領域特論	言語文化資源の活用と情報処理研究	2	○		
	通訳翻訳学特講A	2	○		
	通訳翻訳学特講B	2	○		
	多言語共生社会演習	2	○		
	グローバル共生実践演習	2	○		
専攻言語	中国語特別演習A	2		○	
	中国語特別演習B	2		○	
	朝鮮語特別演習A	2		○	
	朝鮮語特別演習B	2		○	
	モンゴル語特別演習A	2		○	
	モンゴル語特別演習B	2		○	
	インドネシア語特別演習A	2		○	
	インドネシア語特別演習B	2		○	
	フィリピン語特別演習A	2		○	
	フィリピン語特別演習B	2		○	
	タイ語特別演習A	2		○	
	タイ語特別演習B	2		○	
	ベトナム語特別演習A	2		○	
	ベトナム語特別演習B	2		○	
	ビルマ語特別演習A	2		○	
	ビルマ語特別演習B	2		○	
	ヒンディー語特別演習A	2		○	
	ヒンディー語特別演習B	2		○	
	ウルドゥー語特別演習A	2		○	
	ウルドゥー語特別演習B	2		○	
	アラビア語特別演習A	2		○	
	アラビア語特別演習B	2		○	
	ペルシア語特別演習A	2		○	
	ペルシア語特別演習B	2		○	
	トルコ語特別演習A	2		○	
	トルコ語特別演習B	2		○	
	スワヒリ語特別演習A	2		○	
	スワヒリ語特別演習B	2		○	
	ロシア語特別演習A	2		○	
	ロシア語特別演習B	2		○	
	ハンガリー語特別演習A	2		○	
	ハンガリー語特別演習B	2		○	
	デンマーク語特別演習A	2		○	
	デンマーク語特別演習B	2		○	
	スウェーデン語特別演習A	2		○	
	スウェーデン語特別演習B	2		○	
	ドイツ語特別演習A	2		○	
	ドイツ語特別演習B	2		○	
	英語特別演習A	2		○	
	英語特別演習B	2		○	
	英語特別演習C	2		○	
	英語特別演習D	2		○	

	フランス語特別演習 A	2			○	
	フランス語特別演習 B	2			○	
	イタリア語特別演習 A	2			○	
	イタリア語特別演習 B	2			○	
	スペイン語特別演習 A	2			○	
	スペイン語特別演習 B	2			○	
	ポルトガル語特別演習 A	2			○	
	ポルトガル語特別演習 B	2			○	

★印の授業科目は、他の専攻の学生が履修した場合は高度教養教育科目の単位として認定する

日本文学専攻

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性・国際教育科目	高度教養教育科目	
専攻共通	Basic Academic Skills for Humanities 1		2		○	○		
	Basic Academic Skills for Humanities 2		2		○	○		
	Advanced Academic Skills for Humanities 1		2		○	○		
	Advanced Academic Skills for Humanities 2		2		○	○		
	Introduction to Contemporary Japanese Studies 1		2		○	○		
	Introduction to Contemporary Japanese Studies 2		2		○	○		
	Issues in Contemporary Japanese Studies 1		2		○	○		
	Issues in Contemporary Japanese Studies 2		2		○	○		
基盤日文学コース	現代日文学講義		2		○	○		現代日文学分野
	日本の文化と思想講義		2		○	○		
	日本の社会と歴史講義		2		○	○		
	日本の地域と民俗講義		2		○	○		
	日本のジェンダーと表象講義		2		○	○		
	現代日文学演習		2		○			
	フィールドワーク演習		2		○			
	オールラウンド演習		2		○			
	思想史文庫講義演習		2		○			
	表象資料分析演習		2		○			
	現代日文学修士論文作成演習		2		○			
	歴史学方法論講義（概論）		2		○	○		日本史学分野
	世界史演習 I		4		○			
	歴史資料論演習		2		○			
	日本古代史講義		2		○	○		
	日本古代史演習		4		○			
	日本古代史演習		2		○			
	日本中世史講義 I		2		○	○		
	日本中世史講義 II		2		○	○		
	日本中世史演習 I		4		○			
	日本中世史演習 II		4		○			
	日本中世史演習 I - 1		2		○			
	日本中世史演習 I - 2		2		○			
	日本中世史演習 II		2		○			
	日本近世史講義		2		○	○		
	日本近世史演習		4		○			
	日本近世史演習 1		2		○			
	日本近世史演習 2		2		○			
	日本近世史演習 3		2		○			
	日本近代史講義		2		○	○		
	日本近代史演習		4		○			
	日本文化史講義 I		2		○	○		
	日本文化史講義 II		2		○	○		
	アーカイブズ学講義		2		○	○		
	アーカイブズ学演習		2		○			
	アーカイブズ・マネジメント論講義		2		○	○		
	日本史修士論文作成演習 I		4		○			
	日本史修士論文作成演習 II		4		○			
	日本史修士論文作成演習 III		4		○			
	日本史修士論文作成演習 IV		4		○			
	日本史修士論文作成演習 V		4		○			
	考古学講義		2		○	○		考古学分野
	考古学演習 1		2		○			
	考古学演習 2		2		○			
	日本考古学講義 1		2		○	○		
	日本考古学講義 2		2		○	○		
	日本考古学演習		2		○			
	比較考古学講義		2		○	○		
	比較考古学演習		2		○			
	考古資料論講義 1		2		○	○		
	考古資料論講義 2		2		○	○		
	考古資料論演習 1		2		○			
	考古資料論演習 2		2		○			
	文化財学演習		2		○			
	考古学修士論文作成演習		2		○			
	中文学論講義		2		○	○		日本文学・日本語史学分野
	中文学論演習		4		○			
	中世文学論講義		2		○	○		
	中世文学論演習		4		○			
	近現代文学論講義 I		2		○	○		
	近現代文学論演習 I		4		○			
	近現代文学論講義 II		2		○	○		

	近現代文学論演習Ⅱ	4		○		
	日本文学修士論文作成演習	2		○		
	国語史講義	2		○	○	
	国語史演習	4		○		
	国語学講義	2		○	○	
	国語学演習	4		○		
	国語学修士論文作成演習	2		○		
	中国文学講義Ⅰ	2		○	○	
	中国文学演習Ⅰ	2		○		
	中国文学講義Ⅱ	2		○	○	
	中国文学演習Ⅱ	2		○		
	比較文学比較文化論講義	2		○	○	
	比較文学比較文化論演習	2		○		
	テキスト分析講義	2		○	○	
	テキスト分析演習	2		○		
	現代日本語学講義Ⅰ-1	2		○	○	基盤日本語学分野
	現代日本語学講義Ⅰ-2	2		○	○	
	現代日本語学演習Ⅰ-1	2		○		
	現代日本語学演習Ⅰ-2	2		○		
	現代日本語学講義Ⅱ-1	2		○	○	
	現代日本語学講義Ⅱ-2	2		○	○	
	現代日本語学講義Ⅱ-3	2		○	○	
	現代日本語学講義Ⅱ-4	2		○	○	
	現代日本語学演習Ⅱ	2		○		
	現代日本語学講義Ⅲ-1	2		○	○	
	現代日本語学講義Ⅲ-2	2		○	○	
	現代日本語学演習Ⅲ-1	2		○		
	現代日本語学演習Ⅲ-2	2		○		
	社会言語学講義Ⅰ-1	2		○	○	
	社会言語学講義Ⅰ-2	2		○	○	
	社会言語学演習Ⅰ	4		○		
	社会言語学講義Ⅱ-1	2		○	○	
	社会言語学講義Ⅱ-2	2		○	○	
	社会言語学演習Ⅱ	4		○		
	語用論講義	2		○	○	
	語用論演習1	2		○		
	語用論演習2	2		○		
	語用論演習3	2		○		
	現代日本語学修士論文作成演習Ⅰ	4		○		
	現代日本語学修士論文作成演習Ⅱ	4		○		
	現代日本語学修士論文作成演習Ⅲ	4		○		
	社会言語学修士論文作成演習Ⅰ	4		○		
	社会言語学修士論文作成演習Ⅱ	4		○		
	語用論修士論文作成演習	4		○		
応用日本学コース	比較日本学研究総論	2		○		比較日本学分野
	比較日本文化研究Ⅰ	2		○		
	比較日本文化研究Ⅱ	2		○		
	比較日本文化研究Ⅲ	2		○		
	比較日本文化研究Ⅳ	2		○		
	比較日本文化研究Ⅴ	2		○		
	比較日本文化研究Ⅵ	2		○		
	比較日本文化研究Ⅶ	2		○		
	比較日本文化研究Ⅷ	2		○		
	比較日本学研究指導Ⅰ	2		○		
	比較日本学研究指導Ⅱ	2		○		
	応用日本語学研究総論	2		○		応用日本語学分野
	日本語学研究Ⅰ	2		○		
	日本語学研究Ⅱ	2		○		
	日本語学研究Ⅲ	2		○		
	日本語学研究Ⅳ	2		○		
	日本語学研究Ⅴ	2		○		
	日本語学研究Ⅵ	2		○		
	日本語学研究Ⅶ	2		○		
	日本語学研究Ⅷ	2		○		
	日本語学研究Ⅸ	2		○		
	言語学研究Ⅰ	2		○		
	言語学研究Ⅱ	2		○		
	応用日本語学研究指導Ⅰ	2		○		
	応用日本語学研究指導Ⅱ	2		○		
	日本語教育学研究総論	2		○		日本語教育学分野
	日本語教育学研究Ⅰ	2		○		
	日本語教育学研究Ⅱ	2		○		
	日本語教育学研究Ⅲ	2		○		
	日本語教育学研究Ⅳ	2		○		
	日本語教育学研究Ⅴ	2		○		
	日本語教育学研究Ⅵ	2		○		
	日本語教育学研究Ⅶ	2		○		
	日本語教育学研究指導Ⅰ	2		○		
	日本語教育学研究指導Ⅱ	2		○		

芸術学専攻

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
アート・メディア	映像メディア論講義Ⅴ		2		○	○		アート・メディア論分野

論コース	映像メディア論演習Ⅴ		2		○		
	メディア文化論講義Ⅲ		2		○	○	
	メディア文化論演習Ⅲ		2		○		
	メディア文化論演習Ⅵ - 1		2		○		
	メディア文化論演習Ⅵ - 2		2		○		
	メディア文化論講義Ⅶ		2		○	○	
	メディア文化論演習Ⅶ		2		○		
	メディア論演習		2		○		
	芸術環境論講義Ⅱ - 1		2		○	○	
	芸術環境論講義Ⅱ - 2		2		○	○	
	芸術環境論講義Ⅶ		2		○	○	
	芸術環境論演習Ⅱ - 1		2		○		
	芸術環境論演習Ⅱ - 2		2		○		
	身体メディア論講義Ⅳ		2		○	○	
	身体メディア論演習Ⅳ		2		○		
	アート・メディア論修了研究演習 1		2		○		
	アート・メディア論修了研究演習 2		2		○		
	アート・メディア史講義		2		○	○	
	空間メディア論講義Ⅰ		2		○	○	
	空間メディア論演習Ⅰ		2		○		
	空間メディア論演習Ⅵ		4		○		
	アート・プロデュース論演習		2		○		
	アーツ・プラクシス演習		2		○		
	芸術計画論演習		2		○		
美学・文芸学コース	美学講義Ⅱ		2		○	○	美学・文芸学分野
	美学講義Ⅲ		2		○	○	
	美学演習Ⅱ - 1		2		○		
	美学演習Ⅱ - 2		2		○		
	芸術学講義Ⅰ - 1		2		○	○	
	芸術学講義Ⅰ - 2		2		○	○	
	芸術学講義Ⅳ		2		○	○	
	芸術学演習Ⅰ - 1		2		○		
	芸術学演習Ⅰ - 2		2		○		
	芸術学演習Ⅱ		2		○		
	美学修士論文作成演習 1		2		○		
	美学修士論文作成演習 2		2		○		
	文芸学講義Ⅰ		2		○	○	
	文芸学講義Ⅱ		2		○	○	
	文芸学演習Ⅰ - 1		2		○		
	文芸学演習Ⅰ - 2		2		○		
	文芸学演習Ⅱ - 1		2		○		
	文芸学演習Ⅱ - 2		2		○		
	西洋古典学講義Ⅰ		2		○	○	
	西洋古典学講義Ⅱ		2		○	○	
	西洋古典学演習Ⅰ - 1		2		○		
	西洋古典学演習Ⅰ - 2		2		○		
	西洋古典学演習Ⅱ - 1		2		○		
	西洋古典学演習Ⅱ - 2		2		○		
	文芸学講義Ⅲ - 1		2		○	○	
	文芸学講義Ⅲ - 2		2		○	○	
	文芸学修士論文作成演習		4		○		
音楽学・演劇学コース	音楽学講義Ⅰ		2		○	○	音楽学・演劇学分野
	音楽学講義Ⅱ - 1		2		○	○	
	音楽学講義Ⅱ - 2		2		○	○	
	実践音楽学講義		2		○	○	
	実践音楽学演習		2		○		
	応用音楽学講義		2		○	○	
	応用音楽学演習		2		○		
	音楽学演習Ⅰ - 1		2		○		
	音楽学演習Ⅰ - 2		2		○		
	音楽学演習Ⅰ - 3		2		○		
	音楽学演習Ⅱ - 1		2		○		
	音楽学演習Ⅱ - 2		2		○		
	音楽学演習Ⅱ - 3		2		○		
	音楽学演習Ⅱ - 4		2		○		
	音楽学演習Ⅱ - 5		2		○		
	音楽学演習Ⅲ		2		○		
	音楽学修士論文作成演習 1		2		○		
	音楽学修士論文作成演習 2		2		○		
	演劇学講義Ⅰ - 1		2		○	○	
	演劇学講義Ⅰ - 2		2		○	○	
	演劇学講義Ⅱ - 1		2		○	○	
	演劇学講義Ⅱ - 2		2		○	○	
	演劇学講義Ⅲ - 1		2		○	○	
	演劇学講義Ⅳ - 1		2		○	○	
	演劇学演習Ⅰ - 1		2		○		
	演劇学演習Ⅰ - 2		2		○		
	演劇学演習Ⅱ - 1		2		○		
	演劇学演習Ⅱ - 2		2		○		
	演劇学演習Ⅴ - 1		2		○		
	演劇学演習Ⅴ - 2		2		○		
	演劇学演習Ⅲ - 1		2		○		
	演劇学修士論文作成演習Ⅰ - 1		2		○		
	演劇学修士論文作成演習Ⅰ - 2		2		○		
	演劇学修士論文作成演習Ⅱ - 1		2		○		

	演劇学修士論文作成演習Ⅱ - 2		2		○		
日本東洋美術史・西洋美術史コース	日本美術史見学演習 1		4		○		日本東洋美術史・西洋美術史分野
	日本美術史見学演習 2		4		○		
	日本美術史演習Ⅰ		2		○		
	日本美術史演習Ⅱ - 1		2		○		
	日本美術史演習Ⅱ - 2		2		○		
	日本美術史演習Ⅲ - 1		2		○		
	日本美術史演習Ⅲ - 2		2		○		
	東洋美術史演習Ⅰ - 1		2		○		
	東洋美術史演習Ⅰ - 2		4		○		
	日本美術史講義Ⅰ		2		○	○	
	日本美術史講義Ⅱ - 1		2		○	○	
	日本美術史講義Ⅱ - 2		2		○	○	
	日本美術史講義Ⅲ		2		○	○	
	東洋美術史講義Ⅰ - 1		2		○	○	
	東洋美術史講義Ⅰ - 2		2		○	○	
	日本東洋美術史修士論文作成演習 1		2		○		
	日本東洋美術史修士論文作成演習 2		2		○		
	西洋美術史講義Ⅰ		2		○	○	
	西洋美術史講義Ⅱ - 1		2		○	○	
	西洋美術史講義Ⅱ - 2		2		○	○	
	西洋美術史講義Ⅲ		2		○	○	
	西洋美術史演習Ⅰ		2		○		
	西洋美術史演習Ⅱ - 1		2		○		
	西洋美術史演習Ⅱ - 2		2		○		
	西洋美術史演習Ⅱ - 3		2		○		
	西洋美術史演習Ⅱ - 4		2		○		
	西洋美術史演習Ⅲ - 1		2		○		
	西洋美術史演習Ⅲ - 2		2		○		
	西洋美術史演習Ⅲ - 3		2		○		
	西洋美術史演習Ⅳ		2		○		
	西洋美術史講義Ⅴ		2		○	○	
	西洋美術史修士論文作成演習 1		2		○		
	西洋美術史修士論文作成演習 2		2		○		

知のジムナスティックス

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
グローバル・アジア・スタディーズ科目	世界の中のアジア史			2	○			大学院副専攻プログラム（マルチリンガル・エキスパート養成プログラム）
	グローバルフィロソフィー			2	○			
	グローバル・アジア研究Ⅰ			2	○			
	グローバル・アジア研究Ⅱ			2	○			
	グローバル・アジア研究Ⅲ			2	○			
	広域アジア史Ⅰ			2	○			
	広域アジア史Ⅱ			2	○			
	広域アジア史Ⅲ			2	○			
	広域アジア史Ⅳ			2	○			
	広域アジア史Ⅴ			2	○			
	アジアの思想史Ⅰ			2	○			
	アジアの思想史Ⅱ			2	○			
	アジアの思想史Ⅲ			2	○			
	アジアの思想史Ⅳ			2	○			
	アジアの芸術史			2	○			
	アジアの文化と社会Ⅰ			2	○			
	アジアの文化と社会Ⅱ			2	○			
	中国語圏文学Ⅰ			2	○			
	中国語圏文学Ⅱ			2	○			
	中国語圏文学Ⅲ			2	○			
	中国語圏文学Ⅳ			2	○			
	中国語圏文学Ⅴ			2	○			
	中国の文化と社会Ⅰ			2	○			
	中国の文化と社会Ⅱ			2	○			
	中国の文化と社会Ⅲ			2	○			
グローバル・ヨーロッパ・スタディーズ科目	ヨーロッパの哲学Ⅰ			2	○			大学院副専攻プログラム（マルチリンガル・エキスパート養成プログラム）
	ヨーロッパの哲学Ⅱ			2	○			
	ヨーロッパの哲学Ⅲ			2	○			
	ヨーロッパの哲学Ⅳ			2	○			
	ヨーロッパの哲学Ⅴ			2	○			
	ヨーロッパの哲学Ⅵ			2	○			
	ヨーロッパの歴史Ⅰ			2	○			
	ヨーロッパの歴史Ⅱ			2	○			
	ヨーロッパの歴史Ⅲ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅰ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅱ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅲ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅳ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅴ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅵ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅶ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅷ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅸ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅹ			2	○			
	ヨーロッパの文学ⅩⅠ			2	○			
	ヨーロッパの文学ⅩⅡ			2	○			

ヨーロッパの文学ⅩⅢ			2	○			
ヨーロッパの芸術Ⅰ			2	○			
ヨーロッパの芸術Ⅱ			2	○			
ヨーロッパの芸術Ⅲ			2	○			
ヨーロッパの芸術Ⅳ			2	○			
ヨーロッパの現代Ⅰ			2	○			
ヨーロッパの現代Ⅱ			2	○			
ヨーロッパの現代Ⅲ			2	○			
ヨーロッパの現代Ⅳ			2	○			

後期課程授業科目表

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
実務研究科目	人文学実務研究			1	○			
	人文学インターンシップ			1	○			

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
哲学コース	哲学哲学史特殊講義Ⅰ		2		○			哲学哲学史分野
	哲学哲学史特殊講義Ⅱ		2		○			
	哲学哲学史特殊演習Ⅰ		2		○			
	哲学哲学史特殊演習Ⅱ		2		○			
	現代哲学特殊講義Ⅰ		2		○			
	現代哲学特殊講義Ⅱ		2		○			
	現代哲学特殊演習Ⅰ		2		○			
	現代哲学特殊演習Ⅱ		2		○			
	言語哲学特殊講義Ⅰ		2		○			
	言語哲学特殊講義Ⅱ		2		○			
	言語哲学特殊演習Ⅰ		2		○			
	言語哲学特殊演習Ⅱ		2		○			
	認識論特殊講義		2		○			
	認識論特殊演習		2		○			
	存在論特殊講義Ⅰ		2		○			
	存在論特殊講義Ⅱ		2		○			
	存在論特殊演習		2		○			
	哲学哲学史博士論文作成演習		2		○			
	科学技術社会論特殊講義Ⅰ		2		○			科学技術社会論分野
	科学技術社会論特殊講義Ⅱ		2		○			
	科学技術思想史特殊講義Ⅰ		2		○			
	科学技術思想史特殊講義Ⅱ		2		○			
	科学技術社会論特殊演習Ⅰ		2		○			
	科学技術社会論特殊演習Ⅱ		2		○			
	科学技術思想史特殊演習Ⅰ		2		○			
	科学技術思想史特殊演習Ⅱ		2		○			
	科学技術社会論博士論文作成演習Ⅰ		2		○			
	科学技術社会論博士論文作成演習Ⅱ		2		○			
	倫理学特殊講義		2		○			臨床哲学分野
	倫理学特殊演習Ⅰ		2		○			
	倫理学特殊演習Ⅱ		2		○			
	倫理学特殊演習Ⅲ		2		○			
	臨床哲学特殊講義		2		○			
	臨床哲学特殊演習		2		○			
	ジェンダー・セクシュアリティ研究基礎特殊講義		2		○			
	ジェンダー・セクシュアリティ研究基礎特殊演習		2		○			
	社会哲学特殊講義		2		○			
	社会哲学特殊演習		2		○			
	臨床哲学博士論文作成演習		2		○			
	哲学対話法特殊Ⅰ		2		○			
	哲学対話法特殊Ⅱ		2		○			
	漢籍資料科学特殊演習		2		○			中国哲学分野
	中国哲学特殊演習Ⅰ		2		○			
	中国哲学特殊演習Ⅱ		2		○			
	中国哲学特殊講義Ⅰ		2		○			
	中国哲学特殊講義Ⅱ		2		○			
	中国哲学博士論文作成演習		4		○			
	インド学・仏教学特殊講義		2		○			
	インド学・仏教学特殊演習Ⅰ		2		○			
	インド学・仏教学特殊演習Ⅱ		2		○			
	インド学博士論文作成演習		2		○			
	仏教学博士論文作成演習		2		○			
	インド学特殊講義		2		○			
	インド学特殊演習		2		○			
	仏教学特殊講義		2		○			
	仏教学特殊演習		2		○			
	古典語Ⅰ		2		○			
グローバルヒストリー・地理学コース	人文地理学特殊講義Ⅰ		2		○			人文地理学分野
	人文地理学特殊講義Ⅱ		2		○			
	人文地理学特殊講義Ⅲ - 1		2		○			
	人文地理学特殊講義Ⅲ - 2		2		○			

	東アジア史特殊演習Ⅰ - 1		2		○		
	東アジア史特殊演習Ⅰ - 2		2		○		
	東アジア史特殊演習Ⅰ - 3		2		○		
	東アジア史特殊演習Ⅰ - 4		2		○		
	東アジア史特殊講義Ⅱ - 1		2		○		
	東アジア史特殊演習Ⅱ - 1		2		○		
	東アジア史特殊演習Ⅱ - 2		2		○		
	東アジア史特殊演習Ⅱ - 3		2		○		
	東アジア史特殊演習Ⅱ - 4		2		○		
	東アジア文献学特殊演習Ⅱ - 1		2		○		
	東アジア文献学特殊演習Ⅱ - 2		2		○		
	東アジア文献学特殊演習Ⅱ - 3		2		○		
	東アジア文献学特殊演習Ⅱ - 4		2		○		
	中央ユーラシア史特殊講義Ⅰ - 1		2		○		
	中央ユーラシア史特殊演習Ⅰ - 1		2		○		
	中央ユーラシア史特殊演習Ⅰ - 2		2		○		
	中央ユーラシア史特殊演習Ⅰ - 3		2		○		
	中央ユーラシア史特殊演習Ⅰ - 4		2		○		
	中央ユーラシア文献学特殊演習Ⅰ - 1		2		○		
	中央ユーラシア文献学特殊演習Ⅰ - 2		2		○		
	中央ユーラシア文献学特殊演習Ⅰ - 3		2		○		
	中央ユーラシア文献学特殊演習Ⅰ - 4		2		○		
	東洋史博士論文作成演習		2		○		
	世界史特殊演習Ⅲ		2		○		
	歴史学方法論特殊講義（概論）		2		○		
	西洋古代史特殊講義		2		○		西洋史学分野
	西洋古代史特殊演習1		2		○		
	西洋古代史特殊演習2		2		○		
	西洋古代史特殊演習3		2		○		
	西洋古代史特殊演習4		2		○		
	西洋古代史資料講読特殊演習1		2		○		
	西洋古代史資料講読特殊演習2		2		○		
	西洋古代史資料講読特殊演習3		2		○		
	西洋古代史資料講読特殊演習4		2		○		
	西洋中世史特殊講義		2		○		
	西洋中世史特殊演習1		2		○		
	西洋中世史特殊演習2		2		○		
	西洋中世史特殊演習3		2		○		
	西洋中世史特殊演習4		2		○		
	西洋中世史資料講読特殊演習1		2		○		
	西洋中世史資料講読特殊演習2		2		○		
	西洋中世史資料講読特殊演習3		2		○		
	西洋中世史資料講読特殊演習4		2		○		
	西洋近世史特殊講義		2		○		
	西洋近世史特殊演習1		2		○		
	西洋近世史特殊演習2		2		○		
	西洋近世史特殊演習3		2		○		
	西洋近世史特殊演習4		2		○		
	西洋近世史資料講読特殊演習1		2		○		
	西洋近世史資料講読特殊演習2		2		○		
	西洋近世史資料講読特殊演習3		2		○		
	西洋近世史資料講読特殊演習4		2		○		
	西洋近現代史特殊講義Ⅰ		2		○		
	西洋近現代史特殊講義Ⅱ - 1		2		○		
	西洋近現代史特殊講義Ⅱ - 2		2		○		
	西洋近現代史特殊演習Ⅰ - 1		2		○		
	西洋近現代史特殊演習Ⅰ - 2		2		○		
	西洋近現代史特殊演習Ⅱ - 1		2		○		
	西洋近現代史特殊演習Ⅱ - 2		2		○		
	世界史特殊演習Ⅱ - 1		2		○		
	世界史特殊演習Ⅱ - 2		2		○		
	世界史特殊演習Ⅳ - 1		2		○		
	世界史特殊演習Ⅳ - 2		2		○		
	西洋史特殊演習		1		○		
	西洋史博士論文作成演習		2		○		
	歴史学方法論特殊講義（概論）		2		○		
	世界史特殊演習Ⅰ		4		○		
	グローバルセミナー特殊演習1		2		○		
	グローバルセミナー特殊演習2		2		○		
	歴史学方法論特殊講義（各論1）		2		○		
	歴史学方法論特殊講義（各論2）		2		○		
文学コース	中国文学特殊講義Ⅰ		2		○		テキスト表現論中国文学分野
	中国文学特殊講義Ⅱ		2		○		
	中国文学特殊演習Ⅰ		2		○		
	中国文学特殊演習Ⅱ		2		○		
	中国文学博士論文作成演習Ⅰ		2		○		
	中国文学博士論文作成演習Ⅱ		2		○		
	英文学作品研究特殊演習		4		○		テキスト表現論英米文学分野
	英文学史特殊講義Ⅰ		2		○		
	英文学史特殊講義Ⅱ - 1		2		○		
	英文学史特殊講義Ⅱ - 2		2		○		
	英文学史特殊講義Ⅲ		2		○		
	英文学作品研究特殊演習Ⅰ - 1		2		○		
	英文学作品研究特殊演習Ⅰ - 2		2		○		
	アメリカ文学史特殊講義Ⅰ		2		○		
	アメリカ文学史特殊講義Ⅱ - 1		2		○		
	アメリカ文学史特殊講義Ⅱ - 2		2		○		

	アメリカ文学作品研究特殊演習Ⅰ - 1	2		○			
	アメリカ文学作品研究特殊演習Ⅰ - 2	2		○			
	アメリカ文学作品研究特殊演習Ⅱ - 1	2		○			
	アメリカ文学作品研究特殊演習Ⅱ - 2	2		○			
	イギリス文化史特殊講義	2		○			
	アメリカ文化史特殊講義	2		○			
	英文学作品研究博士論文作成演習	2		○			
	アメリカ文学作品研究博士論文作成演習	2		○			
	ドイツ語学特殊演習	2		○			テキスト表現論ドイツ文学分野
	ドイツ語文学特殊講義	2		○			
	ドイツ語文学特殊演習	2		○			
	ドイツ語文学テキスト論特殊講義	2		○			
	ドイツ語文学テキスト論特殊演習	2		○			
	ドイツ文化・芸術論特殊講義	2		○			
	ドイツ文化・芸術論特殊演習	2		○			
	中欧文化論特殊講義	2		○			
	中欧文化論特殊演習	2		○			
	ドイツ文学・思想論特殊講義	2		○			
	ドイツ文学・思想論特殊演習	2		○			
	ドイツ語文学博士論文作成演習	2		○			
	フランス文学特殊講義1	2		○			テキスト表現論フランス文学分野
	フランス文学特殊講義2	2		○			
	フランス文学特殊演習Ⅰ - 1	2		○			
	フランス文学特殊演習Ⅰ - 2	2		○			
	フランス文学特殊演習Ⅱ - 1	2		○			
	フランス文学特殊演習Ⅱ - 2	2		○			
	フランス文学特殊演習	4		○			
	フランス語学特殊講義1	2		○			
	フランス語学特殊講義2	2		○			
	フランス語学特殊演習1	2		○			
	フランス語学特殊演習2	2		○			
	フランス文学史特殊講義1	2		○			
	フランス文学史特殊講義2	2		○			
	フランス文学史特殊演習1	2		○			
	フランス文学史特殊演習2	2		○			
	フランス文学作品研究特殊講義1	2		○			
	フランス文学作品研究特殊講義2	2		○			
	フランス文学作品研究特殊演習1	2		○			
	フランス文学作品研究特殊演習2	2		○			
	フランス文学作品研究特殊演習	4		○			
	フランス文学作品研究博士論文作成演習	2		○			
	テキスト環境論特殊講義	2		○			テキスト環境論分野
	テキスト環境論特殊演習	2		○			
	文化翻訳論特殊演習	2		○			
	文学テキスト論特殊講義	2		○			
	文学テキスト論特殊演習	2		○			
	理論文学研究特殊演習	2		○			
	テキスト実践論特殊演習	2		○			
	物語越境論特殊講義	2		○			
	物語越境論特殊演習	2		○			
	比較文学比較文化論特殊講義	2		○			
	比較文学比較文化論特殊演習	2		○			
	比較文学研究特殊講義	2		○			
	比較文学研究特殊演習	2		○			
	テキスト分析特殊講義	2		○			
	テキスト分析特殊演習	2		○			
	テキスト環境論博士論文作成演習	2		○			
比較・対照言語学 コース	英語学講義Ⅰ	2		○			比較・対照言語学分野
	英語学講義Ⅱ	2		○			
	英語学演習Ⅰ	2		○			
	英語学演習Ⅱ	2		○			
	比較・対照言語学博士論文作成演習	2		○			
	比較言語学講義	2		○			
	英語史講義	2		○			
	理論言語学講義	2		○			
	機能言語学演習	2		○			
	対照言語学講義	2		○			
	英語史演習	2		○			
	英語音声学講義	2		○			
	対照言語学演習	2		○			

言語文化学専攻

授業科目	単位数			科目区分			備考
	必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
超領域文化論特別研究A		2		○			
超領域文化論特別研究B		2		○			
表象文化論特別研究A		2		○			
表象文化論特別研究B		2		○			
コミュニケーション論特別研究A		2		○			
コミュニケーション論特別研究B		2		○			
第二言語教育学特別研究A		2		○			
第二言語教育学特別研究B		2		○			
理論言語学特別研究A		2		○			
理論言語学特別研究B		2		○			
史的言語特別研究A		2		○			

史的言語特別研究 B		2		○		
デジタルヒューマニティーズ特別研究 A		2		○		
デジタルヒューマニティーズ特別研究 B		2		○		
言語認知科学特別研究 A		2		○		
言語認知科学特別研究 B		2		○		

外国学専攻

授業科目	単位数			科目区分			備考
	必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
広域対照言語論特別研究 A		2		○			
広域対照言語論特別研究 B		2		○			
アジア・アフリカ言語構造論特別研究 A		2		○			
アジア・アフリカ言語構造論特別研究 B		2		○			
ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究 A		2		○			
ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究 B		2		○			
アジア・アフリカ文化表象論特別研究 A		2		○			
アジア・アフリカ文化表象論特別研究 B		2		○			
ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究 A		2		○			
ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究 B		2		○			
アジア・アフリカ言語社会論特別研究 A		2		○			
アジア・アフリカ言語社会論特別研究 B		2		○			
ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究 A		2		○			
ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究 B		2		○			
世界文学・文化論		2		○			
現代英米政治外交史特殊研究		2		○			
英米言語社会論		2		○			
Global Area Studies A		2		○			
Global Area Studies B		2		○			
グローバル地域社会論 A		2		○			
グローバル地域社会論 B		2		○			
グローバル地域研究演習 A		2		○			
グローバル地域研究演習 B		2		○			
グローバル地域研究方法論		2		○			
言語文化資源の活用と情報処理研究		2		○			
通訳翻訳学特論 A		2		○			
通訳翻訳学特論 B		2		○			
多言語共生社会演習		2		○			
グローバル共生実践演習		2		○			

日本学専攻

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
専攻共通	Advanced Academic Skills for Humanities 1		2		○			
	Advanced Academic Skills for Humanities 2		2		○			
	Issues in Contemporary Japanese Studies 1		2		○			
	Issues in Contemporary Japanese Studies 2		2		○			
基盤日本学コース	現代日本学特殊講義		2		○			現代日本学分野
	日本の文化と思想特殊講義		2		○			
	日本の社会と歴史特殊講義		2		○			
	日本の地域と民俗特殊講義		2		○			
	日本のジェンダーと表象特殊講義		2		○			
	現代日本学特殊演習		2		○			
	フィールドワーク特殊演習		2		○			
	オーラルヒストリー特殊演習		2		○			
	思想史文献講読特殊演習		2		○			
	表象資料分析特殊演習		2		○			
	現代日本学博士論文作成演習		2		○			
	歴史学方法論特殊講義（概論）		2		○			
	世界史特殊演習 I		4		○			
	日本古代史特殊講義		2		○			
	日本古代史特殊演習		4		○			
	日本古代史特殊演習		2		○			
	日本中世史特殊講義 I		2		○			
	日本中世史特殊講義 II		2		○			日本史学分野
	日本中世史特殊演習 I		4		○			
	日本中世史特殊演習 II		4		○			
	日本中世史特殊演習 I - 1		2		○			
	日本中世史特殊演習 I - 2		2		○			
	日本中世史特殊演習 II		2		○			
	日本近世史特殊講義		2		○			
	日本近世史特殊演習		4		○			
	日本近代史特殊講義		2		○			
	日本近代史特殊演習		4		○			
	日本文化史特殊講義 I		2		○			
	日本文化史特殊講義 II		2		○			
	日本史博士論文作成演習 I		4		○			
	日本史博士論文作成演習 II		4		○			
	日本史博士論文作成演習 III		4		○			
	日本史博士論文作成演習 IV		4		○			
	日本史博士論文作成演習 V		4		○			
	考古学特殊講義		2		○			考古学分野
	考古学特殊演習 1		2		○			
	考古学特殊演習 2		2		○			

	日本考古学特殊講義 1	2		○			
	日本考古学特殊講義 2	2		○			
	日本考古学特殊演習	2		○			
	比較考古学特殊講義	2		○			
	比較考古学特殊演習	2		○			
	考古資料論特殊講義 1	2		○			
	考古資料論特殊講義 2	2		○			
	考古資料論特殊演習 1	2		○			
	考古資料論特殊演習 2	2		○			
	文化財学特殊演習	2		○			
	考古学博士論文作成演習	2		○			
	中古文学論特殊講義	2		○			日本文学・日本語学分野
	中古文学論特殊演習	4		○			
	中世文学論特殊講義	2		○			
	中世文学論特殊演習	4		○			
	近現代文学論特殊講義Ⅰ	2		○			
	近現代文学論特殊演習Ⅰ	4		○			
	近現代文学論特殊講義Ⅱ	2		○			
	近現代文学論特殊演習Ⅱ	4		○			
	日本文学博士論文作成演習	2		○			
	国語史特殊講義	2		○			
	国語史特殊演習	4		○			
	国語学特殊講義	2		○			
	国語学特殊演習	4		○			
	国語学博士論文作成演習	2		○			
	現代日本語学特殊講義Ⅰ	2		○			基盤日本語学分野
	現代日本語学特殊演習Ⅰ - 1	2		○			
	現代日本語学特殊演習Ⅰ - 2	2		○			
	現代日本語学特殊講義Ⅱ - 1	2		○			
	現代日本語学特殊講義Ⅱ - 2	2		○			
	現代日本語学特殊講義Ⅲ - 1	2		○			
	現代日本語学特殊講義Ⅲ - 2	2		○			
	現代日本語学特殊演習Ⅲ - 1	2		○			
	現代日本語学特殊演習Ⅲ - 2	2		○			
	社会言語学特殊講義Ⅰ - 1	2		○			
	社会言語学特殊講義Ⅰ - 2	2		○			
	社会言語学特殊演習Ⅰ	4		○			
	社会言語学特殊講義Ⅱ - 1	2		○			
	社会言語学特殊講義Ⅱ - 2	2		○			
	社会言語学特殊演習Ⅱ	4		○			
	語用論特殊講義	2		○			
	語用論特殊演習 1	2		○			
	語用論特殊演習 2	2		○			
	語用論特殊演習 3	2		○			
	現代日本語学博士論文作成演習Ⅰ	4		○			
	現代日本語学博士論文作成演習Ⅱ	4		○			
	現代日本語学博士論文作成演習Ⅲ	4		○			
	社会言語学博士論文作成演習Ⅰ	4		○			
	社会言語学博士論文作成演習Ⅱ	4		○			
	語用論博士論文作成演習	4		○			
応用日本学コース	比較日本学特別研究A	2		○			比較日本学分野
	比較日本学特別研究B	2		○			
	日本語学特別研究A	2		○			応用日本語学分野
	日本語学特別研究B	2		○			
	対照言語学特別研究A	2		○			
	対照言語学特別研究B	2		○			
	日本語教育学特別研究A	2		○			日本語教育学分野
	日本語教育学特別研究B	2		○			

芸術学専攻

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
アート・メディア論コース	映像メディア論特殊講義Ⅴ	2			○			アート・メディア論分野
	映像メディア論特殊演習Ⅴ	2			○			
	メディア文化論特殊講義Ⅲ	2			○			
	メディア文化論特殊演習Ⅲ	2			○			
	メディア文化論特殊演習Ⅵ-1	2			○			
	メディア文化論特殊演習Ⅵ-2	2			○			
	メディア文化論特殊講義Ⅶ	2			○			
	メディア文化論特殊演習Ⅶ	2			○			
	芸術環境論特殊講義Ⅱ - 1	2			○			
	芸術環境論特殊講義Ⅱ - 2	2			○			
	芸術環境論特殊講義Ⅷ	2			○			
	芸術環境論特殊演習Ⅱ - 1	2			○			
	芸術環境論特殊演習Ⅱ - 2	2			○			
	身体メディア論特殊講義Ⅳ	2			○			
	身体メディア論特殊演習Ⅳ	2			○			
	空間メディア論特殊講義Ⅰ	2			○			
	空間メディア論特殊演習Ⅰ	2			○			
	空間メディア論特殊演習Ⅵ	4			○			
	メディア論特殊演習	2			○			
	アート・メディア史特殊講義	2			○			
	アート・プロデュース論特殊演習	2			○			
	アーツ・プラクシス特殊演習	2			○			
	芸術計画論特殊演習	2			○			

	アート・メディア論博士論文作成演習 1		2		○		
	アート・メディア論博士論文作成演習 2		2		○		
美学・文芸学コース	美学特殊講義Ⅱ		2		○		美学・文芸学分野
	美学特殊講義Ⅲ		2		○		
	美学特殊演習Ⅱ - 1		2		○		
	美学特殊演習Ⅱ - 2		2		○		
	芸術学特殊講義Ⅰ - 1		2		○		
	芸術学特殊講義Ⅰ - 2		2		○		
	芸術学特殊講義Ⅳ		2		○		
	芸術学特殊演習Ⅰ - 1		2		○		
	芸術学特殊演習Ⅰ - 2		2		○		
	芸術学特殊演習Ⅱ		2		○		
	美学博士論文作成演習 1		2		○		
	美学博士論文作成演習 2		2		○		
	文芸学特殊講義Ⅰ		2		○		
	文芸学特殊講義Ⅱ		2		○		
	文芸学特殊演習Ⅰ - 1		2		○		
	文芸学特殊演習Ⅰ - 2		2		○		
	文芸学特殊演習Ⅱ - 1		2		○		
	文芸学特殊演習Ⅱ - 2		2		○		
	西洋古典学特殊講義Ⅰ		2		○		
	西洋古典学特殊講義Ⅱ		2		○		
	西洋古典学特殊演習Ⅰ - 1		2		○		
	西洋古典学特殊演習Ⅰ - 2		2		○		
	西洋古典学特殊演習Ⅱ - 1		2		○		
	西洋古典学特殊演習Ⅱ - 2		2		○		
	文芸学特殊講義Ⅲ - 1		2		○		
	文芸学特殊講義Ⅲ - 2		2		○		
	文芸学博士論文作成演習		4		○		
音楽学・演劇学コース	音楽学特殊講義Ⅰ		2		○		音楽学・演劇学分野
	音楽学特殊講義Ⅱ - 1		2		○		
	音楽学特殊講義Ⅱ - 2		2		○		
	実践音楽学特殊講義		2		○		
	実践音楽学特殊演習		2		○		
	応用音楽学特殊講義		2		○		
	応用音楽学特殊演習		2		○		
	音楽学特殊演習Ⅰ		2		○		
	音楽学特殊演習Ⅱ - 1		2		○		
	音楽学特殊演習Ⅱ - 2		2		○		
	音楽学特殊演習Ⅱ - 3		2		○		
	音楽学特殊演習Ⅲ		2		○		
	音楽学博士論文作成演習 1		2		○		
	音楽学博士論文作成演習 2		2		○		
	演劇学博士論文作成演習Ⅰ - 1		2		○		
	演劇学博士論文作成演習Ⅰ - 2		2		○		
	演劇学博士論文作成演習Ⅱ - 1		2		○		
	演劇学博士論文作成演習Ⅱ - 2		2		○		
	演劇学特殊講義Ⅰ - 1		2		○		
	演劇学特殊講義Ⅰ - 2		2		○		
	演劇学特殊講義Ⅱ - 1		2		○		
	演劇学特殊講義Ⅱ - 2		2		○		
	演劇学特殊講義Ⅲ - 1		2		○		
	演劇学特殊講義Ⅳ - 1		2		○		
	演劇学特殊演習Ⅰ - 1		2		○		
	演劇学特殊演習Ⅰ - 2		2		○		
	演劇学特殊演習Ⅱ - 1		2		○		
	演劇学特殊演習Ⅱ - 2		2		○		
	演劇学特殊演習Ⅴ - 1		2		○		
	演劇学特殊演習Ⅴ - 2		2		○		
	演劇学特殊演習Ⅲ - 1		2		○		
日本東洋美術史・西洋美術史コース	日本美術史見学特殊演習 1		4		○		日本東洋美術史・西洋美術史分野
	日本美術史見学特殊演習 2		4		○		
	東洋美術史特殊演習Ⅰ - 1		2		○		
	東洋美術史特殊演習Ⅰ - 2		4		○		
	日本美術史特殊演習Ⅰ		2		○		
	日本美術史特殊演習Ⅱ - 1		2		○		
	日本美術史特殊演習Ⅱ - 2		2		○		
	日本美術史特殊演習Ⅲ - 1		2		○		
	日本美術史特殊演習Ⅲ - 2		2		○		
	日本美術史特殊講義Ⅰ		2		○		
	日本美術史特殊講義Ⅱ - 1		2		○		
	日本美術史特殊講義Ⅱ - 2		2		○		
	日本美術史特殊講義Ⅲ		2		○		
	東洋美術史特殊講義Ⅰ - 1		2		○		
	東洋美術史特殊講義Ⅰ - 2		2		○		
	日本東洋美術史博士論文作成演習 1		2		○		
	日本東洋美術史博士論文作成演習 2		2		○		
	西洋美術史特殊講義Ⅰ		2		○		
	西洋美術史特殊講義Ⅱ - 1		2		○		
	西洋美術史特殊講義Ⅱ - 2		2		○		
	西洋美術史特殊講義Ⅲ		2		○		
	西洋美術史特殊講義Ⅳ		2		○		
	西洋美術史特殊講義Ⅴ		2		○		
	西洋美術史特殊演習Ⅰ		2		○		
	西洋美術史特殊演習Ⅱ - 1		2		○		
	西洋美術史特殊演習Ⅱ - 2		2		○		
	西洋美術史特殊演習Ⅱ - 3		2		○		

西洋美術史特殊演習Ⅱ - 4	2	○		
西洋美術史特殊演習Ⅲ - 1	2	○		
西洋美術史特殊演習Ⅲ - 2	2	○		
西洋美術史特殊演習Ⅲ - 3	2	○		
西洋美術史特殊演習Ⅳ	2	○		
西洋美術史博士論文作成演習 1	2	○		
西洋美術史博士論文作成演習 2	2	○		

別表 3

前期課程の履修方法

人文学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（人文学と対話）」1単位及び各コースの定めるところにより指定する各専門分野における「修士論文作成演習」2単位以上を含め、計21単位以上を修得すること。 (1) 別表1に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表1に定める人文学専攻の専門教育科目 (3) 別表1に定める他の専攻の専門教育科目
高度国際性涵養教育科目	次の授業科目のうちから、計2単位以上を修得すること。 (1) 別表1に定めるすべての高度国際性涵養教育科目 (2) 他の研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で人文学専攻が指定する科目 (3) リーディングプログラム科目で人文学専攻が認める科目 (4) 国際交流科目で人文学専攻が認める科目
高度教養教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（現代の教養）」1単位を含め、計1単位以上を修得すること。 (1) 別表1に定めるすべての高度教養教育科目 (2) 他の研究科が高度教養教育科目として提供する科目で人文学専攻が指定する科目 (2) 大学院横断教育科目で人文学専攻が認める科目 (3) リーディングプログラム科目で人文学専攻が認める科目
合計修得単位数	上記の要件をすべて満たしたうえで、専門教育科目、高度国際性涵養教育科目及び高度教養教育科目の3つの区分の総修得単位数が30単位以上とならなければならない。

言語文化学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（人文学と対話）」1単位、「研究実践基礎」1単位、「研究発表演習」1単位の計3単位及び言語文化学専攻の専門教育科目14単位以上を含め、計21単位以上を修得すること。 (1) 別表1に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表1に定める言語文化学専攻の専門教育科目 (3) 別表1に定める他の専攻の専門教育科目
高度国際性涵養教育科目	次の授業科目のうちから、計2単位以上を修得すること。 (1) 別表1に定めるすべての高度国際性涵養教育科目 (2) 他の研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で言語文化学専攻が指定する科目 (3) リーディングプログラム科目で言語文化学専攻が認める科目

	(4) 国際交流科目で言語文化学専攻が認める科目
高度教養教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（現代の教養）」1単位を含め、計1単位以上を修得すること。 (1) 別表1に定めるすべての高度教養教育科目 (2) 他の研究科が高度教養教育科目として提供する科目で言語文学専攻が指定する科目 (2) 大学院横断教育科目で言語文化学専攻が認める科目 (3) リーディングプログラム科目で言語文化学専攻が認める科目
合計修得単位数	上記の要件をすべて満たしたうえで、専門教育科目、高度国際性涵養教育科目及び高度教養教育科目の3つの区分の総修得単位数が30単位以上とならなければならない。

外国学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（人文学と対話）」1単位及び外国学専攻の専門教育科目のうち「専攻言語」8単位以上を含め、計21単位以上を修得すること。 (1) 別表1に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表1に定める外国学専攻の専門教育科目 (3) 別表1に定める他の専攻の専門教育科目
高度国際性涵養教育科目	次の授業科目のうちから、計2単位以上を修得すること。 (1) 別表1に定めるすべての高度国際性涵養教育科目 (2) 他の研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で外国学専攻が指定する科目 (3) リーディングプログラム科目で外国学専攻が認める科目 (4) 国際交流科目で外国学専攻が認める科目
高度教養教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（現代の教養）」1単位を含め、計1単位以上を修得すること。 (1) 別表1に定めるすべての高度教養教育科目 (2) 他の研究科が高度教養教育科目として提供する科目で外国学専攻が指定する科目 (2) 大学院横断教育科目で外国学専攻が認める科目 (3) リーディングプログラム科目で外国学専攻が認める科目
合計修得単位数	上記の要件をすべて満たしたうえで、専門教育科目、高度国際性涵養教育科目及び高度教養教育科目の3つの区分の総修得単位数が30単位以上とならなければならない。

日本学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（人文学と対話）」1単位及び日本学専攻の専門教育科目のうち各コースの定めるところにより指定する授業科目12単位以上を含め、計21単位以上を修得すること。 (1) 別表1に定める研究科共通の専門教育科目

	(2) 別表 1 に定める日本学専攻の専門教育科目 (3) 別表 1 に定める他の専攻の専門教育科目
高度国際性涵養教育科目	次の授業科目のうちから、計 2 単位以上を修得すること。 (1) 別表 1 に定めるすべての高度国際性涵養教育科目 (2) 他の研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で日本学専攻が指定する科目 (3) リーディングプログラム科目で日本学専攻が認める科目 (4) 国際交流科目で日本学専攻が認める科目
高度教養教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（現代の教養）」1 単位を含め、計 1 単位以上を修得すること。 (1) 別表 1 に定めるすべての高度教養教育科目 (2) 他の研究科が高度教養教育科目として提供する科目で日本学専攻が指定する科目 (2) 大学院横断教育科目で日本学専攻が認める科目 (3) リーディングプログラム科目で日本学専攻が認める科目
合計修得単位数	上記の要件をすべて満たしたうえで、専門教育科目、高度国際性涵養教育科目及び高度教養教育科目の 3 つの区分の総修得単位数が 30 単位以上とならなければならない。

芸術学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（人文学と対話）」1 単位を含め、計 21 単位以上を修得すること。 (1) 別表 1 に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表 1 に定める芸術学専攻の専門教育科目 (3) 別表 1 に定める他の専攻の専門教育科目
高度国際性涵養教育科目	次の授業科目のうちから、計 2 単位以上を修得すること。 (1) 別表 1 に定めるすべての高度国際性涵養教育科目 (2) 他の研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で芸術学専攻が指定する科目 (3) リーディングプログラム科目で芸術学専攻が認める科目 (4) 国際交流科目で芸術学専攻が認める科目
高度教養教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（現代の教養）」1 単位を含め、計 1 単位以上を修得すること。 (1) 別表 1 に定めるすべての高度教養教育科目 (2) 他の研究科が高度教養教育科目として提供する科目で芸術学専攻が指定する科目 (2) 大学院横断教育科目で芸術学専攻が認める科目 (3) リーディングプログラム科目で芸術学専攻が認める科目
合計修得単位数	上記の要件をすべて満たしたうえで、専門教育科目、高度国際性涵養教育科目及び高度教養教育科目の 3 つの区分の総修得単位数が 30 単位以上とならなければならない。

別表 4

後期課程の履修方法

人文学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、人文学専攻の専門教育科目のうち各コースの定めるところにより指定する各専門分野における「博士論文作成演習」2単位以上を含め、計8単位以上を修得すること。 (1) 別表2に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表2に定める人文学専攻の専門教育科目 (3) 別表2に定める他の専攻の専門教育科目

言語文化学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、言語文化学専攻の専門教育科目8単位を含め、計8単位以上を修得すること。 (1) 別表2に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表2に定める言語文化学専攻の専門教育科目 (3) 別表2に定める他の専攻の専門教育科目

外国学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、外国学専攻の専門教育科目のうち専攻する言語圏の授業科目8単位を含め、計8単位以上を修得すること。 (1) 別表2に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表2に定める外国学専攻の専門教育科目 (3) 別表2に定める他の専攻の専門教育科目

日本学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	基盤日本学コース 次の授業科目のうちから、日本学専攻の専門教育科目のうちコースの定めるところにより指定する各専門分野における「博士論文作成演習」2単位以上を含め、計8単位以上を修得すること。 (1) 別表2に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表2に定める日本学専攻の専門教育科目 (3) 別表2に定める他の専攻の専門教育科目 応用日本学コース 次の授業科目のうちから、日本学専攻の専門教育科目のうちコースの定めるところにより指定する「特別研究」4単位以上を含め、計8単位以上を修得すること。 (1) 別表2に定める研究科共通の専門教育科目

	(2) 別表 2 に定める日本学専攻の専門教育科目 (3) 別表 2 に定める他の専攻の専門教育科目
--	---

芸術学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、芸術学専攻の専門教育科目のうち各コースの定めるところにより指定する各専門分野における「博士論文作成演習」2 単位以上を含め、計 8 単位以上を修得すること。 (1) 別表 2 に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表 2 に定める芸術学専攻の専門教育科目 (3) 別表 2 に定める他の専攻の専門教育科目

大阪大学大学院学則

以下 URL からご確認下さい。

https://www.osaka-u.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u035RG00000002.html

大阪大学学位規程

以下 URL からご確認下さい。

https://www.osaka-u.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u035RG000000093.html

学生教育研究災害傷害保険について

「学生教育研究災害傷害保険（学研災^{がっけんさい}）」は、国内外における教育研究活動中に学生が被った「けが」に対して補償を提供するために設立された保険制度です。

大阪大学では、全ての対象者がこの保険に加入することとしています。加入がまだの方は、すぐに加入の手続きをとってください。

1. 対象

学部生、大学院生、研究生、聴講生及び科目等履修生（留学生を含む。）

（大学施設を単に利用するだけの研修生は対象となりません。ただし日本学術振興会特別研究員は対象となります。）

2. 保険金の内容

保険金が支払われる 事故の範囲	死亡保険金	後遺障害保険 金	医療保険金	入院加算金
正課中(授業、実験実習、 演習等) 学校行事中	2,000 万円	程度に応じて 120 万円 ～3,000 万円	治療日数 1 日以上 が対象 3,000 円～30 万円	1 日につき 4,000 円
通学中 学校施設等相互間の移 動中 大学施設内（課外活動を 除く）	1,000 万円	程度に応じて 60 万円 ～1,500 万円	治療日数 4 日以上 が対象 6,000 円～30 万円	1 日につき 4,000 円
公認団体が大学に届け 出た学内外の課外活動 中	1,000 万円	程度に応じて 60 万円 ～1,500 万円	治療日数 14 日以上 が対象 3 万円～30 万円	1 日につき 4,000 円

（平成 30 年 4 月以降）

3. 加入方法及び請求方法

《加入方法》

入学手続きの際に「学生教育研究災害傷害保険加入者のしおり」とゆうちょ銀行の払込取扱票を配布しますので、必ず**郵便局またはゆうちょ銀行の窓口で通学中等傷害危険担保特約保険料を含む下記の金額**を払い込んでください。接触感染予防保険金支払特約には対応していません。

※ 誤った金額を振り込まれた場合、加入手続きが取れず、この保険の対象となる「けが」であっても保険金の支払いができません。必ず、所属学部(研究科)及び学年に対応した金額を払い込んでください。

学年	所属	文・人・外・法・経・理・医(保健)・薬(薬科・創成薬)・工・基礎工・言文・国際公共・情報・高等司法*・連合小児		
		学部	大学院 (前期・修士)	大学院 (後期・博士)
1		3,300	1,750	2,600
2		2,600	1,000	1,750
3		1,750		1,000
4		1,000		

学年	所属	医(医・医科)・歯・薬(薬・医療薬)			生命機能
		学部	大学院 (修士医のみ)	大学院 (後期・博士)	大学院 (博士)
1		4,700	1,750	3,300	4,050
2		4,050	1,000	2,600	3,300
3		3,300		1,750	2,600
4		2,600		1,000	1,750
5		1,750			1,000
6		1,000			

*高等司法は、別途法科賠保険料を上乗せする。

《事故の通知》

保険事故が発生したときは、ただちに事故の日時・場所・状況・傷害の程度を事故通知ハガキにより保険会社へ通知する必要があります。事故の日から30日以内に通知のない場合は、保険金が支払われないことがあります。

事故通知ハガキは、大学生協の保険窓口に取りに来てください。記入したハガキは、大学生協の保険窓口から保険会社へ送付します。

《保険金の請求》

請求に必要な書類は大学生協の保険窓口で渡します。記入・作成のうえ、大学生協の保険窓口へ提出してください。

※学生教育研究賠償責任保険（学研賠）について

正課・学校行事中やインターンシップ（大学が承認したものに限る）・介護体験活動・教育実習・保育実習及びその往復中に、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりしたことによる法律上支払わなければならない損害賠償金を補償する保険です。

学研賠へは、「学研災」へ先に加入していなければ、加入することができません。加入希望者は必ず「学研災」に加入していることを確認のうえ、大学生協の保険窓口で必要書類を受け取り、郵便局で保険料を払い込んでください。

4. 窓口

豊中生協事務所 （豊中キャンパス豊中福利会館4階）

吹田工学部生協事務所 （吹田キャンパスセンテラス2階）

箕面生協事務所 （箕面キャンパス外国学研究講義棟3階シャントイショップ内）

5. 問い合わせ先

大阪大学 生活協同組合 総務部（豊中福利会館4階） 06-6841-3326

6. ホームページ

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/life/insurance.html>

授業料（入学科）の免除等制度について

本学では、奨学支援の一環として、本人の申請に基づき選考等のうえ、授業料（入学科）の免除が認められる制度や、納入期限が猶予される制度等があります。本学の授業料免除制度は、主に学部学生を対象とした高等教育修学支援制度と一部の学部学生や大学院学生を対象とした大阪大学授業料等免除制度があります。各制度で定める申請対象や申請条件等に該当する場合は、これらの制度を申請することにより、授業料等の全部または一部の納入額が免除される（納入期限が猶予される）可能性があります。経済的理由や家庭の事情等により納入が困難な状況にあるときは、本学のホームページに掲載するこれらの制度の案内や情報をよく確認してください。

なお、授業料（入学科）の免除等制度への申請を希望される場合には、所定の期限までに申請手続を行うようにしてください。

（注1）授業料免除等の申請については、前期（4月から9月まで）分、後期（10月から翌年3月まで）分のそれぞれの期の授業料ごとに免除を決定します。

（注2）入学科免除等の申請については、入学時に限り申請可能です。

1. 申請対象・申請条件

（1）学部学生の授業料（入学科）免除

- 高等教育修学支援制度（「大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第八号）」）：学部学生が授業料等免除の申請を希望される場合、原則高等教育修学支援制度への申請となります。申請前に、下記 URL または QR コードから、高等教育修学支援制度の支援対象者の要件※に該当するか否かを必ず確認してください。
日本学生支援機構 「進学後（在学採用）の給付奨学金の申込資格」
<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/about/kyufu/shikaku/zaigaku.html>



※要件とは、国籍・在留資格に関する要件又は大学等に進学するまでの期間に関する要件のことを指します。

制度概要

- ・住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の日本人等※1 学部学生が対象
- ・「給付奨学金（返還を要しない奨学金）」の給付と、「入学科・授業料減免」の認定がセットとなった支援制度※2
- ・「給付奨学金」は日本学生支援機構が実施する制度、「入学科・授業料減免」は本学が実施する制度、とそれぞれの支援は別制度であるため、申請手続は別々に行う必要あり。

※1 日本国籍を有する者、法定特別永住者として本邦に在留する者、永住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等をもって本邦に在留する者、定住者の在留資格をもって本邦に在留する者で将来永住する意思があると認められた者。

※2 日本学生支援機構給付奨学金に申請し採用され受給される方に対して、大学が入学科・授業料減免を認定する仕組みです。なお、入学科免除は入学時の一度きりの支援となります。

注意事項

高等教育修学支援制度の支援対象者の要件に該当し、支援を受ける権利があるにも関わらず、期限までに所定の申請手続を行っていない場合には、せっかくの支援が受けられず自身の不利益となる可能性がありますので、現時点で支援対象者の要件に該当しない場合であっても、同制度の支援対象者に該当するか否かについては、在籍中の各期において必ず確認を行うようにしてください。

申請方法等

下記 URL または QR コードから Web ページにアクセスし、
申請案内※を確認の上、所定の手続を申請期間内に行ってください。

(※前期：2 月末 後期：8 月末掲載予定)

< 高等教育修学支援制度による授業料等免除の申請方法等 (申請案内・申請システム) >

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/remission/koutou/kotosyugaku-appli>



- 大阪大学授業料等免除制度：高等教育修学支援制度の支援対象者の要件※を満たさず、本学が申請対象として認める方については、大阪大学独自の支援制度として実施する授業料免除に申請できる可能性があります。詳細は大阪大学ホームページの情報を確認するようにしてください。

※高等教育修学支援制度の申請資格詳細に関しては、前頁 URL『日本学生支援機構「進学後（在学採用）の給付奨学金の申込資格」』をご参照ください。

申請方法等

下記 URL または QR コードから Web ページにアクセスし、

申請要項※を確認の上、所定の手続を申請期間内に行ってください。

(※前期：2 月末 後期：8 月末掲載予定)

< 大阪大学授業料免除等制度の申請方法等 (申請要項・申請システム) >

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/remission/system>



(2) 大学院学生の授業料（入学料）免除

以下の要件に該当する方は、大阪大学独自の支援制度として実施する授業料免除に申請することができます。詳細は大阪大学ホームページの情報を確認するようにしてください。

①経済的理由によって納入が困難であり、学力基準を満たす方。

②授業料免除については、前後期各期の授業料の納入前 6 ヶ月以内（新入生に限り納入前 1 年以内）に、出願者の主たる学資負担者が死亡又は出願者本人もしくは出願者の主たる学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納入が困難であると認められる方。入学料免除については、入学前 1 年以内において、出願者の主たる学資負担者が死亡又は出願者本人もしくは出願者の主たる学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、納入が著しく困難であると認められる方。

申請方法等

下記 URL または QR コードから Web ページにアクセスし、

申請要項※を確認の上、所定の手続を申請期間内に行ってください。

(※前期：2 月末 後期：8 月末掲載予定)

< 大阪大学授業料免除等制度の申請方法等 (申請要項・申請システム) >

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/remission/system>



(3) 入学料収納猶予・授業料収納猶予・授業料分納

大阪大学独自の支援制度として実施します。詳細は大阪大学ホームページの情報を確認するようにしてください。

2. 問い合わせ先

吹田学生センター授業料免除担当（開館時間 平日 8:30～17:00）

☎: 06-6879-7088・7161 ☒ gakusei-sien-en1@office.osaka-u.ac.jp

日本学生支援機構奨学金（外国人留学生を除く）について<貸与・給付>

日本学生支援機構奨学金は、勉学に励む意欲があり、またそれにふさわしい能力を持った学生が経済的理由により修学をあきらめることのないように支援する制度です。貸与奨学金は返済の義務があり、必ず返済しなければなりません。給付奨学金は原則として返済の義務はありません。

1. 貸与奨学金について

(2022 年 12 月時点)

奨 学 金 の 種 類		貸 与 月 額	
大 学 (学 部)	第一種奨学金 (無利子)	自宅通学	20,000 円、30,000 円、45,000 円から選択
		自宅外通学	20,000 円、30,000 円、40,000 円、51,000 円から選択
	第二種奨学金 (有利子)	20,000 円～120,000 円 (10,000 円単位) から選択	
大 学 院	第一種奨学金 (無利子)	博士前期 (修士) 課程	50,000 円、88,000 円から選択
		博士後期 (博士) 課程	80,000 円、122,000 円から選択
	第二種奨学金 (有利子)	50,000 円、80,000 円、100,000 円、130,000 円 150,000 円から選択	

(注 1) 下線付きの月額、2018 年度入学者から新たに選択できるようになった月額です。2017 年度以前入学者は選択できません。

(注 2) 第二種奨学金に採用された方は、卒業・修了後、奨学金を返還する際、利子を附加した額を返還することになります。なお、貸与終了時に決定した利率を返還完了まで適用する方式と、貸与終了時から概ね 5 年ごとに利率を見直す方式のどちらか一方を選択できます。(いずれの方式も利率の上限は年 3 %)

(注 3) 大学院において第一種奨学金の貸与を受けた方で、在学中に特に優れた業績を挙げた方として認定された場合、奨学金の返還が免除される制度があります。

(注 4) 高等司法研究科の方で第二種奨学金 150,000 円を選択した場合、40,000 円又は 70,000 円の増額貸与を受けることができます。

【募集情報 (大阪大学ウェブサイト)】

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/scholar/jasso/recruit>

2. 給付奨学金について

(2022 年 12 月現在)

奨 学 金 の 種 類		給 付 月 額 (注 2) (注 3)			
大 学 (学 部)	給付奨学金 (2020 年度以降採用)		第 I 区分	第 II 区分	第 III 区分
		自宅通学	29,200 円 (33,300 円)	19,500 円 (22,200 円)	9,800 円 (11,100 円)
		自宅外通学	66,700 円	44,500 円	22,300 円

(注 1) 給付奨学金は、「学部生」のみが対象です。大学院生は申請できません。

- (注2) 生活保護世帯（受けている扶助の種類を問いません。）で自宅から通学する人及び児童養護施設等から通学する人等は、カッコ内の金額となります。
- (注3) 日本学生支援機構が世帯に関する前年の所得情報を確認したうえで、原則として毎年10月に支援区分（第Ⅰ～Ⅲ区分及び支援対象外の4区分のいずれか）の見直しを行います。採用時の支援区分による支援が必ずしも継続されるとは限らないため注意してください。
- (注4) 給付奨学金と第一種奨学金（貸与）の両方の奨学生となり、第Ⅰ区分又は第Ⅱ区分で給付奨学金を受ける場合は、第一種奨学金の貸与月額は0円に調整され、貸与を受けることができません。また、第Ⅲ区分で給付奨学金を受ける場合は、第一種奨学金の月額が、自宅通学者は20,300円（25,000円）、自宅外通学者は13,800円に減額調整されます。
- (注5) 給付奨学生は奨学金と併せて学費の減免を受けることができます。ただし、学費減免を受けるためには別途、「高等教育修学支援制度による授業料等免除」の申請が必要です。

【募集情報（大阪大学ウェブサイト）】

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/scholar/kyufu/new_r2

3. 申請方法等について

入学前に「予約採用」で採用候補者となった場合や、入学後に新規で申請したい場合の必要手続きや期限の詳細は、3月下旬頃に本学ウェブサイトに掲載します。

貸与奨学金、給付奨学金でそれぞれ手続きが異なります。上記「1」「2」に記載したURLから該当する募集情報を確認して、所定の方法により期限までに手続きを行ってください。

4. 問合せ先

豊中学生センター奨学金担当（豊中キャンパス学生交流棟2階）

※お問い合わせは大阪大学ウェブサイトの問合せフォームをご利用ください。

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/scholar/jasso/form_recruit

地方公共団体及び民間奨学団体奨学金（外国人留学生を除く）について

地方公共団体及び民間奨学団体奨学会による奨学金（以下、「各種奨学金」という。）は、学業、人物ともに優れ、かつ、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる方に給与もしくは貸与される制度です。

学生センターで取り扱っている各種奨学金は、「候補者を選考し大学から推薦する奨学金」と「希望者が直接出願する奨学金」があります。

「候補者を選考し大学から推薦する奨学金」については、推薦人数に限りがあり、またそれぞれの奨学会での推薦基準があるため、必ずしも申請者全員が推薦候補者になるとは限りません。

また、民間奨学団体等奨学会の奨学生に採用されると、在学中のみならず卒業後も民間奨学団体等との関係は続きます。大阪大学から推薦されたという自覚を持ち、向学心をさらに高め、交流会、面談、研修会への出席や、生活状況調書、成績表、奨学金受領書の提出など、奨学生としての義務を果たさなければなりません。これらの義務を怠った場合、辞退や採用取り消しとなる場合もありますので、十分に考慮の上、申請してください。

1. 対象者

奨学金の種類により異なります。

2. 申請方法

◆候補者を選考し大学から推薦する奨学金

大学からの奨学生候補者は、登録者から選考します。

登録要項をダウンロードのうえ、要項で指定している受付期間内に申請してください。

詳細は、当該期の「民間団体等奨学生推薦候補者登録要項」（以下、「登録要項」）を参照してください。

「登録要項」は、12月下旬から、大阪大学ホームページよりダウンロードできます。

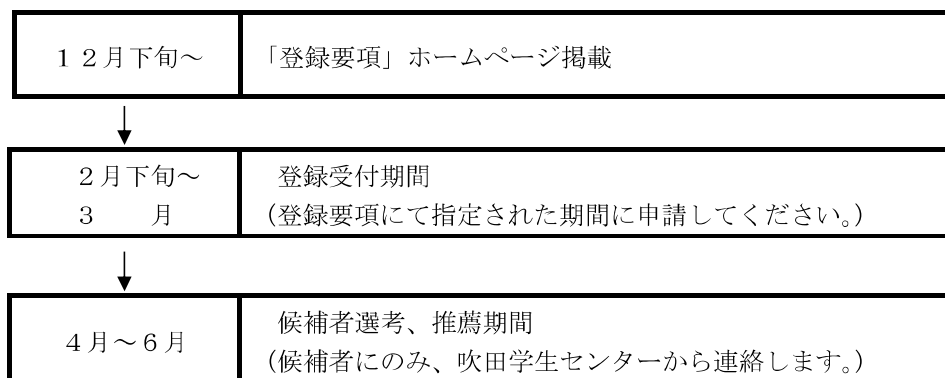
下記 URL または QR コードから Web ページにアクセスしてください。

<地方公共団体及び民間奨学団体の奨学金>

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/scholar/gov_n_private



推薦までの流れ



◆希望者が直接出願する奨学金

大学に募集案内があった場合、その都度KOAN掲示板にてお知らせします。

地方公共団体奨学金については、本学に募集案内が来ない場合があるので、直接、出身地等の教育委員会等へ照会してください。

3. 問い合わせ先

吹田学生センター民間団体等奨学金担当（開館時間 平日 8:30～17:00）

☎: 06-6879-7084 ✉ gakusei-sien-en1@office.osaka-u.ac.jp